

第六十條第三項及第四項並第六十二條第六項ノ規定ハ待遇職員ニ付之ヲ準用ス

第六十五條 公務員ノ増加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癱疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ増加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十六條 下士以下ノ軍人公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癱疾ノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等並傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 文官在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條 下士以上ノ軍人在職年十一年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但

シ下士以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

第六十九條 教育職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十條 警察監獄職員在職年一年以上十年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ノ三分ノ二ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條 待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章 遺族

第七十二條 本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、

子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成

年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一 在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

二 普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第七十四條 未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條 扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタト

キハ其ノ普通恩給年額ノ全額

二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給

年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第七十六條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ

受クルノ資格ヲ失フ

- 一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ
- 三 父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條 扶助料ヲ受クル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌

月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルハ迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄今ヲ停止ス前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十八條 扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定

官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條 前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者在ルトキハ停止期間中扶助料ハ之

ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條 遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

- 一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ
- 三 不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

第八十一條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶

助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限り之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條

文官、

教育職員又ハ待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ在職中死亡シ

○又ハ警察監獄職員在職年一年以上十年未滿ニシテ在職中死亡シ

ル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ左ノ各號ニ依ル

ル金額トス

下士以上ノ軍人在職年一年以上十年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ死亡者ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

一 小學校、實業補習學校、幼稚園又ハ盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職

員ノ遺族ニ在リテハ公務員死亡當時ノ俸給月額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ

在職年ノ年數ヲ乘シタル金額

二 文官、前號ノ教育職員以外ノ教育職員又ハ待遇職員ノ遺族ニ在リテハ公務員ノ死亡當時

ノ俸給月額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額

第八十三條

下士以上ノ軍人在職中死亡シタル場合ニハ一時給與金ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ遺

族ニ、遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

前項ノ一時給與金ノ金額ハ死亡當時ノ軍人ノ階等ニ依リ定メタル別表第五號表ノ金額トス

附則

第八十四條

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ノ定ムル所ニ依ル

第八十五條

左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

- 一 官吏恩給法
- 一 官吏遺族扶助法
- 一 軍人恩給法
- 一 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法
- 一 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法
- 一 明治二十四年法律第四號
- 一 明治二十九年法律第十三號
- 一 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則
- 一 明治二十九年法律第七十八號
- 一 明治三十三年法律第七十五號
- 一 明治三十三年法律第七十六號

- 一 明治三十三年法律第七十七號
- 一 巡查看守退隱料及遺族扶助料法
- 一 明治三十五年法律第二十九號
- 一 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法
- 一 明治四十年法律第四十八號
- 一 明治四十一年法律第三十五號
- 一 明治四十三年法律第三十號
- 一 明治四十四年法律第六十一號
- 一 明治四十四年法律第六十七號
- 一 明治四十五年法律第十一號
- 一 明治四十五年法律第十二號
- 一 大正七年法律第三十號
- 一 大正十年法律第三十五號

- 一 大正十年法律第九十四號
- 一 大正十一年法律第十八號
- 一 大正十一年法律第十九號
- 一 明治三十二年勅令第三百三十三號
- 一 明治二十三年勅令第九十八號
- 一 明治二十五年勅令第十八號
- 一 明治二十五年勅令第三十二號
- 一 明治三十二年勅令第九十六號
- 一 明治三十八年勅令第二百二十九號
- 一 明治四十年勅令第八十八號
- 一 明治四十年勅令第八十九號
- 一 明治四十一年勅令第七十一號
- 一 明治四十五年勅令第七十號
- 一 大正七年勅令第六十二號

- 一 大正十年勅令第二百六十八號
 - 一 大正十一年勅令第八十七號
 - 一 大正十一年勅令第二百八十四號
 - 一 明治九年第九十九號達陸軍恩給令
 - 一 明治十五年第四十一號達巡查看守給助例
 - 一 明治十六年第三十八號達海軍恩給令
 - 一 明治十七年第一號達官吏恩給令
- 第八十六條五 本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル
- 從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ恩給ト看做ス
- 前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類並給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

- 從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル
- 第八十七條六 第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス
- 第八十八條七 第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス
- 第八十九條八 從前ノ規定ニ依リ内閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具中、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依ル内閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス
- 第九十條八十九 本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス
- 第九十條 府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ規定

ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得
前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金
ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ
充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス
府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八
條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキ
ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ
恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十一條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ
際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關
スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス
前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルト
キハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十二條 内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ所屬官署職

員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）樺太又ハ南洋群島ノ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキ

○當分ノ内

ハ○在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス
前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ六月、警察監獄職員ニ在リテハ二年、其ノ他
ノ公務員ニ在リテハ三年トス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十三條 公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ當分

ノ内在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之レヲ準用ス

第九十四條 海軍警吏補ヨリ海軍巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡查

ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡

査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條 朝鮮總督府巡查補ヨリ朝鮮總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在

職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡查補及朝鮮總督府巡查補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條^五 臺灣總督府巡查補ヨリ臺灣總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡查補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ

巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十七條^六 大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引

續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タル恩給ヲ受クヘキ場合

ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十八條^七 第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退

職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第九十九條^八 第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法

施行後不具廢疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條^九 第五十八條ノ規定ハ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官ニ付テハ當分ノ内

之ヲ適用セス其ノ退隱料又ハ恩給ノ停止ハ仍從前ノ例ニ依ル但シ教育職員及教官其ノ他教育

事務ニ従事スル文官學習院ノ職員ト爲リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ノ施行セラルル期間内ニ屬スル教育職員ノ在職年ト教官其ノ他教育事務ニ従事ス

ル文官以外ノ公務員ノ在職年トハ互ニ之ヲ通算セス仍從前ノ例ニ依ル教育職員ノ在職年ト第

四十二條第一項各號ニ掲クル在職年トノ間ニ付亦同シ但シ學習院ノ職員トシテノ在職年ニ付

テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ノ施行セラルル期間内ニ文官ヨリ教育職員又ハ教官其ノ他教育事務ニ従事スル

文官ニ轉任シタル者失格原因ナクシテ退職シ年金タル恩給ヲ受ケサル場合ニ於テハ文官ノ在

職年數ニ應シ之ニ一時恩給ヲ給ス

教育職員ヨリ文官ニ轉シタル者教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官以外ノ文官トシテ失格原

因ナクシテ退職シタルトキハ教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官トシテノ在職最終ノ俸給額

ニ基キ之ニ恩給ヲ給ス

第一百一條 本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキモノニ付

テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス
前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クル
コトナシ

本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クル
ノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順
位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナ
シ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ増額ヲ受ケサリシ軍人ノ遺族本法施行後扶助料
ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ヲ俟タスシ
テ同法附則ノ規定ニ依リ増額セラレタルモノト看做ス

第百二條 警察監獄職員公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタル場合ニ其ノ遺族ニ給スヘキ扶助料
ノ年額ニ付テハ當分ノ内第七十五條第一號及第二號ノ規定ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第百三條 本法施行前退官退職シ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給ヲ給セラレ又ハ給セラルヘカ
ノ際現ニ
退隱料、遺族扶助料具ノ他

リシ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ本法施行ノ際其ノ權利ヲ有シ本法所定ノ恩給○ノ金額
ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法施行ノ日ヨリ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法所定ノ各相當ノ恩給ヲ給ス

但シ從前ノ規定ニ依ル金額カ本法所定ノ恩給額ヨリ多キトキハ其ノ額ニ依ル
料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ分割遞次増給ス

本法施行前死亡シタル公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニシテ第七十三條第一項各號ノ一ニ
該當シ本法施行ノ際其ノ權利ヲ有シ本法所定ノ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ本法施行ノ
日ヨリ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法所定ノ各相當ノ扶助料ヲ給ス但シ從前ノ規定ニ依ル金額カ
本法所定ノ扶助料額ヨリ多キトキハ其ノ額ニ依ル

第百二條 本法施行後勅令ヲ以テ定ムル時期迄ニ年金タル恩給又ハ扶助料ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル者ノ恩給又ハ扶助料ノ
年額ハ當該金額ニ其ノ額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ年額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ分割遞次増加シタル
額トス

第百四條 明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シ
タル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛若ハ衆議
院守衛又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ
扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶

助料ヲ本法施行ノ日ヨリ増額給與ス
 前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及
 盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ巡查又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行
 ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付之ヲ準用ス

第四百四條 勅令ヲ以テ定ムル時期迄ニ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタル警察監獄職員ノ遺族ニ給スヘキ扶助料ノ年額ニ付
 テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四百五條 前二條ノ規定ノ適用ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 「北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金
 タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス」

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス
 前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四百六條 第八十三條及第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除ク外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

ノ受クル年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス
 前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

(別表) 政府案

第一號表

在職年數	官								判任				兵				
	將官及相當官				佐尉官及相當官				准士官		下士官		海軍		陸軍		
十一年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
十二年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
十三年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
十四年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
十五年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
十六年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
十七年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
十八年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
十九年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
二十年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
二十一年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
二十二年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇

備考 特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ヲ加ヘタルモノトス
第三號表

在職年數	階等	傷病原因																																	
		甲					乙																												
年	親任	號																																	
		第十款	第九款	第八款	第七款	第六款	第五款	第四款	第三款	第二款	第一款																								
一	高	一六五	三三〇	四九五	六六〇	八二五	九九〇	一、一五四	一、三二〇	一、四八五	一、六五〇	一、五〇〇	一、三五〇	一、二〇〇	一、〇五〇	一、三二〇	一、一八八	一、〇五六	九二四	七九二	六六〇	五二八	三九六	二六四	一三二	一、二〇〇	一、〇八〇	九六〇	八四〇	七二〇	六〇〇	四八〇	三六〇	二四〇	一二〇
二	高	一六五	三三〇	四九五	六六〇	八二五	九九〇	一、一五四	一、三二〇	一、四八五	一、六五〇	一、五〇〇	一、三五〇	一、二〇〇	一、〇五〇	一、三二〇	一、一八八	一、〇五六	九二四	七九二	六六〇	五二八	三九六	二六四	一三二	一、二〇〇	一、〇八〇	九六〇	八四〇	七二〇	六〇〇	四八〇	三六〇	二四〇	一二〇
三	高	一六五	三三〇	四九五	六六〇	八二五	九九〇	一、一五四	一、三二〇	一、四八五	一、六五〇	一、五〇〇	一、三五〇	一、二〇〇	一、〇五〇	一、三二〇	一、一八八	一、〇五六	九二四	七九二	六六〇	五二八	三九六	二六四	一三二	一、二〇〇	一、〇八〇	九六〇	八四〇	七二〇	六〇〇	四八〇	三六〇	二四〇	一二〇
四	高	一六五	三三〇	四九五	六六〇	八二五	九九〇	一、一五四	一、三二〇	一、四八五	一、六五〇	一、五〇〇	一、三五〇	一、二〇〇	一、〇五〇	一、三二〇	一、一八八	一、〇五六	九二四	七九二	六六〇	五二八	三九六	二六四	一三二	一、二〇〇	一、〇八〇	九六〇	八四〇	七二〇	六〇〇	四八〇	三六〇	二四〇	一二〇
五	高	一六五	三三〇	四九五	六六〇	八二五	九九〇	一、一五四	一、三二〇	一、四八五	一、六五〇	一、五〇〇	一、三五〇	一、二〇〇	一、〇五〇	一、三二〇	一、一八八	一、〇五六	九二四	七九二	六六〇	五二八	三九六	二六四	一三二	一、二〇〇	一、〇八〇	九六〇	八四〇	七二〇	六〇〇	四八〇	三六〇	二四〇	一二〇
六	高	一六五	三三〇	四九五	六六〇	八二五	九九〇	一、一五四	一、三二〇	一、四八五	一、六五〇	一、五〇〇	一、三五〇	一、二〇〇	一、〇五〇	一、三二〇	一、一八八	一、〇五六	九二四	七九二	六六〇	五二八	三九六	二六四	一三二	一、二〇〇	一、〇八〇	九六〇	八四〇	七二〇	六〇〇	四八〇	三六〇	二四〇	一二〇
七	高	一六五	三三〇	四九五	六六〇	八二五	九九〇	一、一五四	一、三二〇	一、四八五	一、六五〇	一、五〇〇	一、三五〇	一、二〇〇	一、〇五〇	一、三二〇	一、一八八	一、〇五六	九二四	七九二	六六〇	五二八	三九六	二六四	一三二	一、二〇〇	一、〇八〇	九六〇	八四〇	七二〇	六〇〇	四八〇	三六〇	二四〇	一二〇
八	高	一六五	三三〇	四九五	六六〇	八二五	九九〇	一、一五四	一、三二〇	一、四八五	一、六五〇	一、五〇〇	一、三五〇	一、二〇〇	一、〇五〇	一、三二〇	一、一八八	一、〇五六	九二四	七九二	六六〇	五二八	三九六	二六四	一三二	一、二〇〇	一、〇八〇	九六〇	八四〇	七二〇	六〇〇	四八〇	三六〇	二四〇	一二〇
九	高	一六五	三三〇	四九五	六六〇	八二五	九九〇	一、一五四	一、三二〇	一、四八五	一、六五〇	一、五〇〇	一、三五〇	一、二〇〇	一、〇五〇	一、三二〇	一、一八八	一、〇五六	九二四	七九二	六六〇	五二八	三九六	二六四	一三二	一、二〇〇	一、〇八〇	九六〇	八四〇	七二〇	六〇〇	四八〇	三六〇	二四〇	一二〇
十	高	一六五	三三〇	四九五	六六〇	八二五	九九〇	一、一五四	一、三二〇	一、四八五	一、六五〇	一、五〇〇	一、三五〇	一、二〇〇	一、〇五〇	一、三二〇	一、一八八	一、〇五六	九二四	七九二	六六〇	五二八	三九六	二六四	一三二	一、二〇〇	一、〇八〇	九六〇	八四〇	七二〇	六〇〇	四八〇	三六〇	二四〇	一二〇

年	二	三	四	五	六	七	八	九	十
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
六、二五〇	五、六三三	五、〇〇〇	四、三七五	三、七二二	三、三〇〇	二、八八〇	二、四六〇	二、〇四〇	一、六二〇
五、四七二	四、八五五	四、二三〇	三、七三三	三、二六三	二、八四三	二、四二三	二、〇〇三	一、五八三	一、一六三
四、六九四	四、〇七七	三、四四〇	二、三六三	二、〇六三	一、六四三	一、二二三	〇、八〇三	〇、三八三	〇、〇〇三
三、九一六	三、二九九	二、六六二	一、五八五	一、二八五	〇、八六五	〇、四四五	〇、〇二五	〇、〇〇五	〇、〇〇五
三、一三九	二、五二二	一、八七八	〇、八〇一	〇、五〇一	〇、一〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一
二、三六一	一、七四五	一、一〇九	〇、五三二	〇、二三二	〇、〇三二	〇、〇〇二	〇、〇〇二	〇、〇〇二	〇、〇〇二
一、五八四	一、〇〇七	〇、四四一	〇、一四一	〇、〇四一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一
〇、八〇七	〇、二三〇	〇、〇六四	〇、〇〇四	〇、〇〇四	〇、〇〇四	〇、〇〇四	〇、〇〇四	〇、〇〇四	〇、〇〇四
〇、〇三〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇

第五號表
大正十年法律第百二號中改正法律案
大正十年法律第百二號中左ノ通改正ス
同法中「官吏恩給法第五條ノ規定ニ依リ計算シタル年額ニ其ノ百分ノ五十二ニ相當スル金額」ヲ
「恩給法中文官ノ普通恩給ニ關スル規定ニ依リ計算シタル年額ニ其ノ百分ノ三十二ニ相當スル金
額」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依ル恩給年額ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル恩給年額ヲ給ス
 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依ル恩給年額ニ基ク扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル恩給年額ニ基ク扶助料年額ヲ給ス
 (附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長公爵近衛文麿 散會ヲ命ス

散會 午後三時五十二分

第二回 大正十二年三月十二日

出席委員

委員長	公爵	近衛文麿	副委員長	大島健一
委員	伯爵	副島道正	子爵	樋口誠康
同	子爵	青木信光	同	男爵 坂本俊篤

同	男爵	神野勝之助	同	男爵 郷誠之助
同	同	澤柳政太郎	同	同 阪本鈺之助
同	同	福永吉之助	同	同 南吉之助
同	同	江木翼	同	同 伊丹彌太郎

出席政府委員

四月 同 三月十六日 閣議 內閣恩給局長 入倉 貫一

開會 午後一時三十三分

○副委員長大島健一 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵近衛文麿 散會ヲ命ス

散會 午後二時五十六分

(附記一) 同日委員子爵青木信光ハ恩給法案ノ審査ノ進行ヲ圖ル爲メ特別委員中ヨリ小委員六人ヲ選出シ之レニ委員長副委員長ヲ加ヘ其選定ハ委員長ニ任スヘシト發議シ委員會ニ於テ異議ナク之ヲ可決シタルヲ以テ副委員長大島健一ハ委員長ニ代リ直ニ左ノ

六名ヲ指名セリ

委員長 伯爵 近衛吉文 副委員長 大島健 委員 伯爵 副島道正 委員 子爵 青木信光 委員 子爵 坂本勲俊

○委員長公爵近衛文麿

○委員 伯爵 副島道正

○委員 子爵 青木信光

○委員 子爵 坂本勲俊

(附記二) 恩給法案特別委員中小委員ハ大正十二年三月十二日、同年三月十三日、同年三月十日、同年三月十六日、同年三月十九日ノ五回會議ヲ開キ審査ヲ遂ケタリ

第三回 大正十二年三月二十日

出席委員 委員長 伯爵 近衛吉文 副委員長 大島健 委員 伯爵 副島道正 委員 子爵 青木信光 委員 子爵 坂本勲俊

同 貴族院議員 神野英勝 同 男爵 郷誠之助 同 男爵 船越光之丞 同 男爵 澤柳政太郎 同 男爵 阪本鈺之助 同 男爵 福永吉之助 同 男爵 江木翼

出席政府委員

内閣恩給局長 入江貫一

法制局長官 三浦十馬 法制局參事官 黒崎定三

大藏次官 西野文完

大藏書記官 太田嘉太郎

大開會 二午前十時四十五分

○委員長公爵近衛文麿 開會ヲ宣告ス

○委員長公爵近衛文麿 散會ヲ命ス

散會 午後零時二十一分

大正十二年三月二十日

大正十二年三月二十日

- 委員員 公領 天 高 藤 田
- 委員員 公領 波 瀨 文 淵

岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案特別委員會

朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案特別委員會

大正十二年三月六日議長ノ指名ヲ以テ岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- 委員員 侯爵 佐 佐 木 行 忠
- 委員員 子爵 稻 垣 木 太 祥
- 委員員 子爵 豐 岡 圭 資
- 委員員 子爵 新 庄 直 知
- 委員員 中 村 是 公
- 委員員 男爵 辻 村 太 郎

(附記) 朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案ハ大正十二年三月八日連繫事件トシテ其ノ審査ヲ岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案特別委員ニ付託セラル

委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月十四日委員長副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

- | | | |
|-------|------|-------|
| 中林 景公 | 委員長 | 佐木 行忠 |
| 豐岡 圭資 | 副委員長 | 楠木 圭資 |

發行ニ會ス議決案特別委員ヲ選定スルコト決メ

○第一回大正十二年三月十四日 岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ關スル法律案特別委員會 出席委員

- | | |
|---------------|--------------|
| 副委員長 子爵 豐岡 圭資 | 委員長 侯爵 佐木 行忠 |
| 同 子爵 新庄 直知 | 同 子爵 楠木 圭資 |

同 男爵 黑川 幹太郎 同 男爵 辻 木太郎

出席政府委員 八十四日 謹 二

出席政府委員 八十四日

有吉 忠一

引削 幸太郎

井出 繁三郎

鐵道省監督局長

○委員開會 午前十時十八分

○委員長 侯爵 佐木 行忠

(參照) 大正十二年四月一日

岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

岩北軌道株式會社所屬好摩平館間軌道經營ノ廢止ニ對スル補償ノ爲政府ハ該補償ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案

朝鮮私設鐵道補助法中左ノ通改正ス

第一條及第二條中「十年」ヲ「十五年」ニ改ム

第五條中「二百五十萬圓」ヲ「三百萬圓」ニ改ム

岩附則則對大會指限運轉並經營廢止ニ據スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○委員長侯爵佐佐木行忠ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長侯爵佐佐木行忠ニ散會ヲ命ス

散會 午前十一時十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月十四日

右特別委員長

侯爵 佐佐木行忠

貴族院議長公爵德川家達殿

第二回 大正十二年三月十六日

出席委員

委員長 侯爵 佐佐木行忠 副委員長子爵 豊岡圭資

委員 子爵 稻垣太祥 同 子爵 新庄直知

同 中村是公 同 員 笠井信義

同 男爵 黒川幹太郎 同 員 辻木太郎

出席政府委員 朝鮮總督府政務總監 有吉木忠

朝鮮總督府鐵道部長 委員 弓削幸太郎

大開會 午前十時十六分

○委員長侯爵佐佐木行忠ニ開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵佐佐木行忠ニ散會ヲ命ス

散會 午前十時三十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

○委員朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案ニ對シ

右可決スヘキモノナリ下議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月十六日

○委員出納貴族院議長公爵徳川家達殿

副會長 午更前一時無五限 仲 太郎 委員長 侯爵 佐佐木大行 忠印

副會長 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ副委員長 子爵 豊岡 圭資 印

右可決委員長ニ對シテ下議決セリ依テ及報告候也 副委員長 子爵 豊岡 圭資

出納委員 年三月十四日 右特別委員長 侯爵 佐佐木大行 忠

第二回 大正十二年三月十六日 貴族院議長公爵徳川家達殿

大正十二年三月十六日

貴族院議長公爵徳川家達殿

侯爵 佐佐木大行 忠

中央卸賣市場法案特別委員會

委員選舉 子爵 有 勳 喜 五 郎 同 子爵 大 阪 兼 一

○大正十二年三月六日議長ノ指名ヲ以テ中央卸賣市場法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

出納委員 伯爵 吉 井 幸 藏

第一回 大正十二年三月八日

副會長 子爵 松 平 直 平

副會長 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ副委員長 子爵 野 村 益 三

右可決委員長ニ對シテ下議決セリ依テ及報告候也 副委員長 子爵 大 浦 兼 一

出納委員 子爵 戶 澤 正 巳

○大正十二年三月八日議長ノ指名ヲ以テ中央卸賣市場法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

副會長 子爵 上 山 滿 之 進

副會長 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ副委員長 子爵 若 林 資 藏

右可決委員長ニ對シテ下議決セリ依テ及報告候也 副委員長 子爵 坪 井 九 郎

出納委員 男爵 赤 松 範 一

副會長 男爵 藤 田 四 郎

副會長 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ副委員長 男爵 高 橋 琢 也

委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

伊澤多喜男	大谷嘉兵衛	片岡直輝	平尾喜三郎
委員長	副委員長	委員長	副委員長
伯爵	吉井幸藏	高橋琢也	吉井幸藏

會議

第一回 大正十二年三月九日

出席委員

○大正十二年三月九日	伯爵吉井幸藏	副委員長	高橋琢也
委員	子爵戶澤正己	同	子爵大浦兼一
同	男爵坪井九八郎	同	男爵赤松範一

同	伊澤多喜男	同	片岡直輝
同	平尾喜三郎	同	鶴見左吉雄

出席政府委員

農商務省商務局長	鶴見左吉雄
農商務書記官	田島勝太郎

開會 午前十一時二分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

(參照)

中央卸賣市場法案

第一條 本法ニ於テ中央卸賣市場トハ地方公共團體又ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ民法第三十四條ノ規定ニ依ル法人カ魚類、肉類、鳥類、卵、蔬菜及果實ノ卸賣ヲ爲ス爲主務大臣ノ指定スル都市及其ノ鄰接地ニ於テ本法ニ依リ開設スル市場ヲ謂フ

中央卸賣市場ニ於テハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ前項ニ掲グル物品ノ一部ノ卸賣ヲ爲サス又ハ其ノ他ノ日用品ノ卸賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 中央卸賣市場ヲ開設セムトスルトキハ業務規程及事業計畫ニ關スル書類ヲ具シ主務大

臣ノ認可ヲ受クヘシ中央卸賣市場ノ分場ヲ設置セムトスルトキ亦同シ

第三條 左ニ掲クル事項ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

一 中央卸賣市場ノ取扱品目

二 中央卸賣市場ノ收受スル使用料、保管料及手数料

三 卸賣ノ業務ヲ爲ス者ノ收受スル手数料

第四條 業務規程又ハ事業計畫ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ第二條ノ規定ニ依ル認可ヲ與フルニ當リ之ニ制限又

ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第六條 主務大臣ハ第二條ノ規定ニ依ル認可ヲ與フルトキハ其ノ中央卸賣市場ノ業務ノ開始ニ

至ル迄ノ間ニ於テ開設者ノ意見ヲ聞キ其ノ中央卸賣市場ノ取扱品目ニ付當該指定區域内ニ於

テ中央卸賣市場類似ノ業務ヲ爲ス市場ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得中央卸賣市場ノ取扱品目ヲ追

加スルトキ亦同シ

第七條 開設者ハ前條ノ規定ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル市場ノ開設者及卸賣ノ業務ヲ爲ス者ニ

對シ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ當事者ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ地方長

官ノ決定ヲ求ムヘシ地方長官ノ決定ニ不服アル者ハ決定書ヲ送付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ九

十日内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 主務大臣ハ開設者ニ對シ命令ノ定ムル設備ニ要スル費用ノ三分ノ一以内ノ補助金ヲ交

付スルコトヲ得

第九條 主務大臣ハ開設者カ法令若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ之ニ基キテ爲シタル處

分ニ從ハサルトキハ之ニ對シ補助金ノ全部又ハ一部ヲ交付セサルコトヲ得

第十條 地方長官ノ許可ヲ受ケタル者ハ中央卸賣市場ニ於テ卸賣ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十一條 前條ノ規定ニ依リ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ開設者ニ保證金ヲ納

付スヘシ

第十二條 開設者ハ中央卸賣市場ノ收受スル使用料、保管料及手数料ニ關シ保證金ニ付他ノ債

權者ニ對シ優先權ヲ有ス

前項ノ優先權ハ第十三條ノ規定ニ依ル優先權ニ優先ス

第十三條 第十條ノ規定ニ依リ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ニ對シ販賣又ハ販賣ノ委託ヲ爲シタル者ハ販賣又ハ販賣ノ委託ニ因リテ生シタル債權ニ關シ其ノ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ノ保證金ニ付他ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有ス

第十四條 中央卸賣市場ニ於テ爲ス賣買ニ付テハ糶賣ノ方法ニ依ルヘシ但シ業務規程ノ定ムル特別ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 第十條ノ規定ニ依リ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ開設者ニ對シ賣買値段及取引高ヲ報告スヘシ

第十六條 開設者ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ第十條ノ規定ニ依リ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ニ對シ其ノ業務ヲ停止シ若ハ千圓以下ノ過怠金ヲ課シ又ハ賣買ニ參加スル者ノ入場ヲ停止スルコトヲ得

第十七條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ中央卸賣市場ノ構造、設備、業務規程ノ變更、業務又ハ財産狀況ノ報告其ノ他ニ關シ事業ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條 主務大臣ハ開設者又ハ卸賣ノ業務ヲ爲ス者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之

ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ業務規程ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 第二條ノ規定ニ依リ認可ヲ取消

二 中央卸賣市場ノ業務ノ停止

三 卸賣ノ業務ヲ爲ス者ノ業務許可ヲ取消又ハ業務ノ停止

四 第一條ノ法人ノ役員ノ解任

第十九條 主務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ開設者又ハ卸賣ノ業務ヲ爲ス者ノ業務、帳簿、財産其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第二十條 中央卸賣市場ノ廢止ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第二十二條 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第十五條ノ規定ニ基ク報告ヲ爲サス若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者又ハ第十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲スヘキ

義務アル者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ前條ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ未成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 第六條ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者又ハ第十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲スヘキ義務アル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居人、雇人其ノ他ノ從業者右命令又ハ義務ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十五條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者第六條ノ規定ニ依ル命令又ハ第十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲スヘキ義務ニ違反シタルトキハ第二十二條ノ罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

第二十六條 第一條ノ法人又ハ第十條ノ規定ニ依リ卸賣ノ業務ヲ爲ス者第十九條ノ規定ニ依ル検査ヲ受クル場合ニ於テ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ検査ノ際當該官吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第一條ノ法人ノ役員其ノ職務ニ付賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサ

ルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

貴商會書記官

田島 大 補

第二十八條 前條第一項ノ者ニ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○委員男爵坪井九八郎 本日ハ速記モ手不足トノ趣ナレハ直チニ散會セラレテハ如何

○委員長伯爵吉井幸藏 暫ク休憩シテハ如何

○委員高橋琢也 本日缺席ノ上山委員ヨリ今週タケハ法案ニ付熟讀シ來週ヨリ開會セラレタシトノ希望申出アリ如何

○委員長伯爵吉井幸藏 兎ニ角次回ハ來週ニ開會スルコトニシテハ如何

異議ナシ

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午前十一時十八分

第二回 大正十二年三月十二日

出席委員

委員長 伯爵 吉井 幸藏 副委員長 高橋 琢也

委員 子爵 松平 直平 子爵 戶澤 正己

同 子爵 大浦 兼一 同 上山 滿之進

同 若林 資藏 同 男爵 坪井 九八郎

同 赤松 範一 同 藤田 四郎

同 伊澤 多喜男 同 大谷 嘉兵衛

同 片岡 直輝 同 平尾 喜三郎

出席國務大臣

農商務大臣 荒井 賢太郎

農商務省商務局長 鶴見 左吉雄

農商務書記官 田島 勝太郎

出席政府委員

農商務大臣 荒井 賢太郎
農商務省商務局長 鶴見 左吉雄
農商務書記官 田島 勝太郎

開會 午後一時十四分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午後三時五十七分

第三回 大正十二年三月十三日

出席委員

委員長 伯爵 吉井 幸藏 副委員長 高橋 琢也

委員 子爵 野村 益三 子爵 戶澤 正己

同 子爵 大浦 兼一 同 上山 滿之進

同 若林 資藏 同 男爵 坪井 九八郎

同 赤松 範一 同 藤田 四郎

同 伊澤 多喜男 同 大谷 嘉兵衛

同 片岡 直輝 同 平尾 喜三郎

出席國務大臣

出席政府委員

農商務大臣 荒井賢太郎
 農商務省商務局長 鶴見左吉雄
 農商務書記官 田島勝太郎

開會 午後一時十五分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午後三時三分

第四回 大正十二年三月十五日

出席委員

委員長 伯爵 吉井幸藏 副委員長 高橋琢也
 委員 子爵 松平直平 子爵 戸澤正己
 同 子爵 大浦兼一 同 上山滿之進

同 若林 資藏 男爵 赤松 範一

同 藤田 四郎 同 伊澤 多喜男

同 大谷 嘉兵衛 同 片岡 直輝

同 尾喜 三郎 同 荒井 賢太郎

出席國務大臣

農商務大臣 荒井賢太郎

出席政府委員 農商務省商務局長 鶴見左吉雄

農商務書記官 田島勝太郎

開會 午後一時二十五分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午後二時十一分

第五回 大正十二年三月十六日

出席委員

委員長 伯爵 吉井 幸藏 副委員長 高橋 琢也

委員 子爵 松平 直平 同 子爵 野村 益三

同 子爵 戸澤 正己 同 子爵 大浦 兼一

同 上 山滿之進 同 若林 資藏

同 男爵 坪井 九八郎 同 男爵 赤松 範一

同 藤田 四郎 同 伊澤 多喜男

同 大谷 嘉兵衛 同 片岡 直輝

同 平尾 喜三郎 同 荒井 賢太郎

出席國務大臣

出席政府委員

農商務大臣

荒井 賢太郎

農商務省商務局長

鶴見 左吉雄

農商務書記官

田島 勝太郎

開會 午前十時二十九分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午前十時十二分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

中央卸賣市場法案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十二年三月十六日

右特別委員長

伯爵 吉井 幸藏

貴族院議長公爵徳川家達殿

(附記一) 別冊略之貴族院議事速記録第二十三號三百五十頁參照

(附記二) 同日上山滿之進、男爵坪井九八郎、男爵赤松範一、藤田四郎、伊澤多喜男、片岡直輝ヨリ本委員會ノ報告ニ對スル左ノ少數者意見ヲ提出セリ

中央卸賣市場法案特別委員會ノ報告ニ對スル少數者意見
右貴族院規則第五十六條及第四十八條ニ依リ提出候也

大正十二年三月十六日

- 男爵 上山滿之進
- 男爵 坪井九八郎
- 男爵 赤松範一
- 藤田多四郎
- 伊澤多喜男
- 片岡直輝

貴族院議長公爵徳川家達殿

中央卸賣市場法案特別委員會ノ報告ニ對スル少數者意見

○本案第一條中「又ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ民法第三十四條ノ規定ニ依ル法人」ヲ削除スヘ

○案キモノトス

開會 千禧十號二十八日

委員長 伯爵

吉井幸藏印

副委員長

高橋琢也印

男爵 福原 俊丸

男爵 横山 隆俊

男爵 小畑 大太郎

永田 秀次郎

村野 常右衛門

今井 五介

金杉 英五郎

二階堂 三郎左衛門

(附記) 産業組合法中改正法律案、日本勸業銀行法中改正法律案、郵便貯金法中改正法律案ハ

(附記) 大正十二年三月十九日連繫事件トシテ其ノ審査ヲ産業組合中央金庫法案特別委員ニ付

託セラル

日本勸業委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 勸修寺 經雄

副委員長 服部 一三

會議

第一回 大正十二年三月十四日

出席委員

委員長 伯爵 勸修寺 經雄 副委員長 服部 一三

委員 子爵 八條 隆正 同 道家 齊

同 荒川 義太郎 同 仲小路 廉

同 男爵 横山 隆俊 同 男爵 小畑 大太郎

同 村野 常右衛門 同 今井 五介

同 金杉 英五郎 同 二階堂 三郎左衛門

出席國務大臣

農商務大臣 荒井 賢太郎

出席政府委員

大藏省銀行局長 黒田 英雄

出席委員

農商務次官 岡本英太郎

農商務省農務局長 長滿 欽司

開會 午後一時十九分

○委員長伯爾勸修寺經雄 開會ヲ宣告ス

(參照)

産業組合中央金庫法案

第一章 總則

第一條 産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

第二條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ從タル事務所ヲ必要ナリトスルトキハ産業組合中央金庫ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

産業組合聯合會ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ代理スルコトヲ得

第三條 産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立許可ノ日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ

存立期間ヲ延長スルコトヲ得

第四條 産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬口ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス
産業組合中央金庫ハ資本金全額ノ拂込前ト雖出資者總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増加スルコトヲ得

第五條 政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス
産業組合聯合會及産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ二百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 政府ハ千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後毎年五百萬圓宛拂込ムモノトス政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

政府ノ産業組合中央金庫ニ對シテ所有スヘキ持分ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 産業組合法中産業組合ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第八條 産業組合中央金庫ニハ所得税及營業稅ヲ課セス

登録稅法及印紙稅法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第二章 役員

第九條 産業組合中央金庫ニ理事長、副理事長各一人理事、監事各三人以上ヲ置ク

第十條 理事長ハ産業組合中央金庫ヲ代表シテ其ノ事務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ産業組合中央金庫ノ業務ヲ掌理ス

監事ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監査ス

第十一條 理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ任命ス

理事長、副理事長及理事ノ任期ハ五箇年監事ノ任期ハ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任

ヲ命スルコトヲ得

第十二條 産業組合中央金庫ニ評議員二十名以内ヲ置キ主務大臣之ヲ任命ス但シ其ノ半數以上

ハ産業組合關係者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

評議員ハ名譽職トシ定款ノ定ムル所ニ依リ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ就キ理事長ノ諮

問ニ應スルモノトス

評議員ノ任期ハ三箇年トス

第三章 業務

第十三條 産業組合中央金庫ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

一 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ擔保ヲ徵セスシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

二 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

三 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ爲替業務ヲ爲スコト

四 産業組合聯合會、産業組合、公共團體其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ヨリ預リ金ヲ爲スコト

第十四條 産業組合中央金庫ハ必要アリト認メタル場合ニ於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第

二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵

便預金ト爲スコト

二 産業組合聯合會、産業組合、公共團體其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條 無擔保ニテ借入ヲ爲シタル府縣市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ於テ元
利金ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキ又ハ期限前ノ償還請求ニ對シ其ノ拂込ヲ爲ササル
トキハ産業組合中央金庫ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ産業組合中央金庫ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ市町村其ノ他法律ニ依リ組
織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ
監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣市町村其ノ他法律ニ依リ組織セル公共團體ニ命令シテ延
滞元利金ヲ拂込マシムヘシ

第十七條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第四章 産業債券

第十八條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金
現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登録税法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

第十九條 産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求
ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第二十條 産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲一時第十八條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債券
ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面
金額ニ相當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

第二十一條 産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第二十二條 産業債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五箇年、利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完
成ス

第二十三條 産業債券ノ摸造ニ關シテハ通貨及證券摸造取締法ヲ準用ス

第五章 計算

第二十四條 産業組合中央金庫ノ事業年度ハ一箇年トス

第二十五條 産業組合中央金庫ハ毎事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第六章 監督及補助

第二十六條 主務大臣ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監督ス

本法中主務大臣トアルハ農商務大臣及大藏大臣トス

第二十七條 産業組合中央金庫ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十八條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ業務ニ關スル諸般ノ狀況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第三十條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ産業組合中央金庫ノ貸付又ハ割引ノ金額若ハ方法ヲ制限スルコトヲ得

第三十一條 産業組合中央金庫ノ貸付金利子ノ最高歩合ハ毎事業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認

可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ事業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十二條 主務大臣ハ特ニ産業組合中央金庫監理官ヲ置キ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監視セ

シム

第三十三條 産業組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ産業組合中央金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢

査スルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ産業組合中央金庫ニ命

ジテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ出資者總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十四條 産業組合中央金庫ハ創立初期ヨリ十五箇年間政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲

スコトヲ要セス

第七章 罰則

第三十五條 左ノ場合ニ於テハ産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以

上千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ
 - 二 主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ
 - 三 第十五條ノ規定ニ反シ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ
 - 四 第十七條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミタルトキ
 - 五 第十八條第一項及第二十條第二項ノ規定ニ反シタルトキ
- 第三十六條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

- 第三十七條 主務大臣ハ設立委員ヲ置キ産業組合中央金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
- 第三十八條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集ス
- 第三十九條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申立書ヲ主務大臣ニ提出シ産業組合中央金庫設立ノ許可ヲ稟請スヘシ
- 前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス
- 第四十條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ産業組合中央金庫理事長ニ引渡ス

ヘシ

第四十一條 産業組合中央金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

産業組合法中改正法律案

産業組合法中左ノ通改正ス

第七十六條ノ二第一項中「又ハ農工銀行」ヲ、「農工銀行又ハ産業組合中央金庫」ニ改ム

同條第二項中「銀行」ノ下ニ「又ハ産業組合中央金庫」ヲ加フ

附 則

本法ハ産業組合中央金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

日本勸業銀行法中改正法律案

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第十五條ノ二中「農工債券」ノ下ニ「又ハ産業債券」ヲ加フ

第二十九條第三十四條及第三十六條中「北海道拓殖債券」ノ下ニ「産業債券」ヲ加フ

第三十條及第三十九條中「北海道拓殖債券」ノ下ニ「産業債券」ヲ「北海道拓殖銀行」ノ下ニ「産業組合中央金庫」ヲ加フ

附則

本法ハ産業組合中央金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
郵便貯金法中改正法律案
郵便貯金法中左ノ通改正ス
第四條第三號中「産業組合」ノ下ニ「又ハ産業組合中央金庫」ヲ加フ

附則

本法ハ産業組合中央金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵勸修寺經雄 散會ヲ命ス

散會 午後三時二十七分
第二回 大正十二年三月十七日

出席委員

委員長 伯爵勸修寺經雄 副委員長 服部 一三
委員 子爵 八條 隆正 同 道家 齊

同 男爵 山本 達雄 同 荒川 義太郎

同 仲小路 廉 同 男爵 横山 大隆 俊

同 男爵 小畑 大太郎 同 永田 秀次郎

同 村野 常右衛門 同 今井 五介

同 金杉 英五郎

出席國務大臣 農商務大臣 荒井 賢太郎

大藏大臣 市來 乙彦

出席政府委員 大藏省銀行局長 黒田 英雄

農商務次官 岡本 英太郎

農商務省農務局長 長 滿 欽 司

開會 午前十時三十一分

○委員長伯爵勸修寺經雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵勸修寺經雄 休憩ヲ命ス

休憩 午後零時二分

開會 午後一時二十八分

○委員長伯爵勸修寺經雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵勸修寺經雄 散會ヲ命ス

散會 午後二時五十三分

第三回 大正十二年三月二十日

出席委員

委員長	伯爵	勸修寺經雄	副委員長	服部一三
委員	子爵	八條英隆正	同	道家齊
同	男爵	山本達雄	同	荒川義太郎
同	男爵	仲小路太廉	同	福原俊丸
同	男爵	横山隆俊	同	小畑大太郎
同	男爵	村野常右衛門	同	今井五介

同、平對一類十金杉英五郎

出席國務大臣

農商務大臣

荒井賢太郎

出席政府委員

大藏省銀行局長

黑田英雄

大藏書記官

岡本英太郎

農商務次官

岡本英太郎

農商務省農務局長

長瀬滿三欽司

開會 午後一時十九分

○委員長伯爵勸修寺經雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵勸修寺經雄 散會ヲ命ス

散會 午後三時三十八分

第四回 大正十二年三月二十三日

出席委員

委員長	伯爵	勸修寺經雄	副委員長	服部一三
委員	子爵	八條隆正	同	道家齊
同	男爵	山本達雄	同	荒川義太郎
同	男爵	仲小路廉	同	男爵 福原俊丸
同	男爵	横山隆俊	同	男爵 小畑大太郎
同	同	村野常右衛門	同	今井五介
同	同	金杉英五郎	同	二階堂三郎左衛門

出席國務大臣

農商務大臣	荒井賢太郎
大藏省銀行局長	黑田英雄
農商務次官	岡本英太郎
農商務省農務局長	長滿欽司

出席政府委員

開會 午後一時十八分

○委員長伯爵勸修寺經雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵勸修寺經雄 散會ヲ命ス

散會 午後二時一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

産業組合中央金庫法案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 勸修寺經雄

貴族院議長公爵徳川家達殿

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第二十七號四百七十三頁參照

産業組合法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十三日

貴族院議長公爵徳川家達殿

日本勸業銀行法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 勸修寺經雄

右特別委員長

伯爵 勸修寺經雄

貴族院議長公爵徳川家達殿

郵便貯金法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 勸修寺經雄

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 勸修寺經雄
副委員長 服部 一三 印

大正十二年三月二十三日
 委員選舉 侯爵 大隈 信常
 子爵 舟橋 遂賢
 子爵 勘解由小路 資承
 子爵 池田 政時
 委員 土方 寧
 男爵 竹腰 正巳
 男爵 高崎 弓彦
 安立 綱之

身元保證ニ關スル法律案特別委員會

民事訴訟法中改正法律案特別委員會

(附記) 右特別委員會會議録ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十二年三月八日議長ノ指名ヲ以テ身元保證ニ關スル法律案、民事訴訟法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

大正十二年三月二十三日
 委員選舉 侯爵 大隈 信常
 子爵 舟橋 遂賢
 子爵 勘解由小路 資承
 子爵 池田 政時
 委員 土方 寧
 男爵 竹腰 正巳
 男爵 高崎 弓彦
 安立 綱之

民事訴訟法中左ノ通改正ス

第一百十三條中「裁判長若クハ陪席判事」ヲ「裁判長、陪席判事若クハ訴訟代理人タル辯護士」ニ改ム

第三百十五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

訴訟代理人タル辯護士ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ證人ニ問ヲ發スルコトヲ得

人事訴訟手續法中改正法律案

人事訴訟手續法中左ノ通改正ス

第三十條ノ二 私生兒認知ノ訴ハ其相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長土方寧 散會ヲ命スニ因リ散會

(附記) 身元保證ニ關スル法律案、民事訴訟法中改正法律案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラ

○委員長 散會

- 委員長 土方寧 印
- 副委員長 安立綱之印

借地借家調停法中改正法律案特別委員會

○委員選舉

○大正十二年三月八日議長ノ指名ヲ以テ借地借家調停法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- 伯爵 松浦厚
- 山脇玄
- 男爵 小澤千武雄
- 子爵 秋月種英
- 男爵 山根武亮
- 男爵 目賀田種太郎
- 男爵 若王子文健
- 岡田文次
- 近岡理三郎
- 委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 松浦 厚

副委員長 男爵 山根 武亮

會議

第一回 大正十二年三月十九日

出席委員

委員長 伯爵 松浦 厚

副委員長 男爵 山根 武亮

委員 子爵 秋月 種英

同 男爵 若王子 文健

同 岡田 文次

出席政府委員

司法省民事局長 池田 寅二郎

○大正十開會ニ午後一時五十二分

○委員長伯爵松浦厚 開會ヲ宣告ス

(參照)

借地借家調停法中改正法律案

借地借家調停法中左ノ通改正ス

第七條第一項ヲ左ノ如ク改ム

當事者及利害關係人ハ自身又ハ代理人出頭スルコトヲ要ス但シ辯護士ニ非サル者ヲ代理人ト
スル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ

第七條ノ二 裁判所ハ當事者及利害關係人自身ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵松浦厚 散會ヲ命ス

散會 午後二時十二分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

借地借家調停法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月十九日

右特別委員長

委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	侯爵	花山院親家
副委員長	谷田森	查真男

會議

第一回 大正十二年三月十六日

出席委員

委員長	侯爵	花山院親家	副委員長	谷森	真男		
委員	伯爵	松平	賴壽	子爵	西大路	吉光	
同	男爵	北河	原公	平	同	同	
出席政府委員	農商務省	山林局長	中井	勵	作	鈴木	繁

文部省參事官

菊池豐三郎

農商務省山林局長

中井勵作

開會 午後一時十三分

○委員長侯爵花山院親家 開會ヲ宣告ス

(參照)

國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案

第一條 明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法第一條ノ期間内ニ下戻ノ申請ヲ爲ササル者ハ大正十三年三月三十一日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得但シ社寺上地處分ニ依リ官有地ニ編入セラレタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ申請ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三條 明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法ニ依リ申請シタル者及同法律施行以前ニ下戻ニ關スル申請書又ハ願書ヲ差出シ同法律ニ依リタルモノト看做サレタルモノニシテ主務大臣ノ處分ニ對シ期限内ニ出訴セサル者ハ大正十三年三月三十一日迄ニ行政裁判所

ニ出訴スルコトヲ得但シ社寺土地處分ニ依リ官有地ニ編入セラレタルモノハ此ノ限ニ在ラス
社寺現境内地無償下付ニ關スル法律案

第一條 社寺境内地ニシテ現ニ國有ニ屬スル現境内地ハ申請ニ依リ之ヲ其ノ社寺ニ下付スヘシ

第二條 本法ニ依リ下付ノ申請ハ大正十五年七月三十一日迄ニ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ

第三條 此ノ申請ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ其ノ指令ヲ受ケタル日ヨリ三箇月内ニ行政裁

判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條 第一條ニ依リ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ境内地及立木竹ノ所有權ヲ取得ス

前項ニ依リ所有權ヲ取得シタル者ハ其ノ土地及立木竹ニ付第三者ノ現ニ有スル權利ヲ害スル

コトヲ得ス

第五條 本法ニ依リ下付ヲ受ケタル境内地及立木竹ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ

讓渡シ又ハ地上權、抵當權若ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第六條 本法施行前行政處分又ハ裁判所ノ判決ヲ受ケタル者ト雖本法ニ依リ下付ノ申請ヲ爲ス

コトヲ妨ケス

附則

文部大臣 鎌田 榮 吉
西 野 三 廣

本法ハ大正十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長侯爵花山院親家 散會ヲ命ス

○散會 午後三時二十二分

○第二回 大正十二年三月二十四日

出席委員

委員長 侯爵 正花 山 院 親 家 副委員長 谷 森 眞 男

○委員 委員 山 伯 爵 松 平 賴 壽 同 子 爵 西 大 路 吉 光

○委員 同 和 田 彦 次 郎 同 男 爵 高 千 穂 宣 麿

同 男 爵 北 河 原 公 平 同 男 爵 岩 倉 道 俱

同 矢 口 長 右 衛 門

出席國務大臣

文部大臣 鎌 田 榮 吉

出席政府委員

西 野 三 廣

大藏次官 西野元

臨時國有財産整理部長 鈴木繁

文部省參事官 菊池豐三郎

農商務省山林局長 中井勵作

開會 午後一時二十九分

○委員長侯爵花山院親家 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵花山院親家 休憩ヲ命ス

休憩 午後二時五十三分

開會 午後四時三十八分

○委員長侯爵花山院親家 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵花山院親家 散會ヲ命ス

○委員散會 午後四時五十四分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

本國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十四日

右特別委員長

侯爵 花山院親家

貴族院議長公爵徳川家達殿

(附記) 社寺現境内地無償下付ニ關スル法律案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ

閉會トナレリ

委員長 侯爵 花山院親家 印

副委員長 谷森真男 印

開會 午後一時二十九分

○委員長 櫻井 山崎 義家 林 恩 分

○委員 長 櫻井 山崎 義家 林 恩 分

休會 開會 午後一時五十三分

(閉會) 櫻井 山崎 義家 林 恩 分

○委員長 櫻井 山崎 義家 林 恩 分

○委員 長 櫻井 山崎 義家 林 恩 分

開會 午後四時五十四分

大正十二年三月二十四日

可否決ハ...

法律案委員

櫻井 山崎 義家

櫻井 山崎 義家

櫻井 山崎 義家

競馬法案特別委員會

委員選舉

○大正十二年三月十日議長ノ指名ヲ以テ競馬法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

出席委員

第一回 大正十二年三月十四日

會 議

出席委員

出席委員

○大正十二年三月十四日委員選舉委員會ノ選舉式ノ結果ニ

委員選舉式ノ結果ニ

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-------|----|--------|----|-------|----|-------|----|--------|----|--------|----|-------|----|-------|----|-------|
| 子爵 | 高倉 永則 | 子爵 | 井上 匡四郎 | 子爵 | 秋田 重季 | 子爵 | 西尾 忠方 | 男爵 | 宇佐川 一正 | 男爵 | 荒川 義太郎 | 男爵 | 名和 長憲 | 男爵 | 伊藤 文吉 | 男爵 | 右渡 敏一 |
|----|-------|----|--------|----|-------|----|-------|----|--------|----|--------|----|-------|----|-------|----|-------|

主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依ル競馬ヲ行フコトヲ得
 第二條 年三回以上競馬ヲ開催セムトスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
 競馬開催ノ期間ハ毎回四日以内トス

第三條 競馬ヲ開催スルトキハ入場者ヨリ入場料ヲ徴收スヘシ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ無料
 入場者ト定メタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 第一條ノ法人ハ入場者ニ對シ券面金額五圓以上二十圓以下ノ勝馬投票券ヲ券面金額ヲ
 以テ發賣スルコトヲ得

勝馬投票券ノ發賣ハ競馬一競走ニ付一人一枚ヲ限ル
 勝馬投票券ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第五條 學生生徒又ハ未成年者ニ對シ勝馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得ス
 當該競馬ヲ開催スル第一條ノ法人ノ役員又ハ當該競馬ニ關スル開催執務委員、調教師、騎手、
 馬丁其ノ他競馬ノ事務ニ従事スル者ニ對シ亦前項ニ同シ

第六條 第一條ノ法人ハ勝馬投票的中者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ當該競走ニ付テノ勝馬投
 票券ノ賣得金ノ額ヲ超エサル範圍内ニ於テ拂戻金ヲ交付スルモノトス但シ其ノ金額ハ勝馬投

票券ノ券面金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 入場料ノ金額、勝馬投票券ノ券面金額及發賣方法並前條ノ拂戻金ノ支給方法ニ付テハ
 主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 勝馬投票券ヲ發賣シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ賣得金ノ額ノ百分ノ一以内
 ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スヘシ
 前項ノ規定ニ依ル納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順
 位ハ國稅ニ次クモノトス

第九條 主務大臣ハ第一條ノ法人ニ對シ馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル施設ヲ命
 スルコトヲ得

第十條 第一條ノ法人ハ豫算ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第一條ノ法人ハ每事業年度終了後二月内ニ主務大臣ニ決算報告ヲ爲スヘシ

第十一條 第一條ノ法人ノ理事及監事ノ就任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第十二條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ第一條ノ法人ノ定款其ノ他ノ規則ノ改正
 ヲ命シ又ハ其ノ總會ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ第一條ノ法人又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反

シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 競馬ノ停止

二 勝馬投票券發賣ノ停止又ハ制限

三 役員ノ解任

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二 第十三條第二號ノ停止又ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二 第五條ノ規定ニ違反シタル者

三 第五條第二項ニ掲クル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ

四 第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ拂戻金ヲ交付シタル者

五 第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルニ非サル券面金額ノ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第一條ノ法人ニ非スシテ勝馬投票券ヲ發賣スル者ヨリ又ハ第十三條第二號ノ停止若ハ制

限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣スル者ヨリ勝馬投票券ヲ購買シタル者

二 第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ購買シタル者

三 勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者

四 第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル拂戻金ノ交付ヲ受ケタル者

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵兒玉秀雄 散會ヲ命ス

散會 午前十一時四十五分

第二回 大正十二年三月十七日

出席委員

委員長 伯爵 兒玉 秀雄 副委員長男爵 宇佐川 一正

委員 侯爵 細川 護立 同 子爵 高倉 永則

同 子爵 井上 匡四郎 同 子爵 秋田 重季

同 子爵 西尾 忠方 同 荒川 義太郎

同 男爵 名和 長憲 同 男爵 伊藤 文吉

同 男爵 石渡 敏一 同 加太 邦憲

同 親 川上 慶五郎 同 湯淺 倉平

同 親 晴 同

出席國務大臣

陸軍大臣 山梨 半造

出席政府委員 陸軍次官 白川 義則

陸軍中將 渡邊 爲太郎

出席說明員 馬政局技師 石橋 正人

馬政局技師 石橋 正人

○委員開會 午前十時二十八分

○委員長伯爵兒玉秀雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵兒玉秀雄 散會ヲ命ス

散會 午後零時十一分

第三回 大正十二年三月二十日

出席委員

委員長 伯爵 兒玉 秀雄 副委員長 男爵 宇佐川 正

委員 侯爵 細川 護立 子爵 高倉 永則

同 子爵 井上 匡四郎 子爵 秋田 重季

同 子爵 西尾 忠方 男爵 荒川 義太郎

同 男爵 名和 長憲 男爵 伊藤 文吉

同 男爵 石渡 敏一 同 加太 邦憲

同 親 川上 慶五郎 同 湯淺 倉平

同 親 晴 同

出席國務大臣

出席政府委員

出席說明員

開會 午前十時三十二分

○委員長伯爵兒玉秀雄 二開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵兒玉秀雄 休憩ヲ命ス

○委員長 休憩 午後零時三十分 命ス

○委員長 開會 午後一時十九分 宣告ス

○委員長伯爵兒玉秀雄 開會ヲ宣告ス

山梨 半造

渡邊 爲太郎

林川 頼三郎

赤司 鷹重郎

高倉 未明

石橋 川正入

陸軍大臣

陸軍中將

式司法省刑事局長

文部次官

馬政局技師

陸軍大臣

陸軍次官

陸軍中將

波邊 爲太郎

石橋 正人

○委員長伯爵兒玉秀雄 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十六分

第四回 大正十二年三月二十一日

出席委員

委員長 伯爵 兒玉 秀雄

副委員長 男爵 宇佐川 一正

委員 侯爵 細川 護立

委員 子爵 西尾 忠方

委員 子爵 西尾 忠方

委員 男爵 荒川 義太郎

委員 男爵 伊藤 文吉

委員 男爵 加代 邦憲

委員 湯淺 倉平

出席政府委員

陸軍大臣

山梨 半造

出席委員

內務省警保局長 後藤 文夫
陸軍中將 渡邊 爲太郎

出席說明員

平馬政局技師 石橋 正人

開會 午後一時十七分

○委員長伯爵兒玉秀雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵兒玉秀雄 散會ヲ命ス

散會 午後三時四分

第五回 大正十二年二月二十三日

出席委員

○委員長伯爵 兒玉 秀雄

○委員 子爵 細川 護立

○委員 子爵 秋田 重季

○委員 同 荒川 義太郎

副委員長男爵 宇佐川 一正

同 井上 匡四郎

同 西尾 忠方

同 名和 長憲

同 高倉 永順

同 宇野 重吉

同 高倉 永順

同 宇野 重吉

同 宇野 重吉

同 宇野 重吉

同 宇野 重吉

同 宇野 重吉

同 宇野 重吉

同 男爵 伊藤 文吉 同 石川 渡義敏

同 加太 邦憲 同 川上 河親晴

同 湯淺 倉平 同 犬上 慶五郎

出席國務大臣 山梨 半造

出席政府委員 陸軍大臣 渡邊 爲太郎

司法省刑事局長 山田 林三郎

同 山田 林三郎

同 山田 林三郎

同 山田 林三郎

同 山田 林三郎

同 山田 林三郎

同 山田 林三郎

同 山田 林三郎

同 山田 林三郎

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

(大正十二年三月二十三日)

右特別委員長

伯爵 兒玉 秀雄

○委員 貴族院議長公爵徳川家達殿

(附記一) 別冊略之貴族院議事速記録第二十七號四百五十四頁参照

(附記二) 同日侯爵細川護立、子爵井上匡四郎、荒川義太郎、川上親晴、湯淺倉平ヨリ本委員

會ノ報告ニ對スル左ノ少數者意見ヲ提出セリ

競馬法案特別委員會ノ報告ニ對スル少數者意見

右貴族院規則第五十六條及第四十八條ニ依リ提出候也

大正十二年三月二十三日

委員	伯爵	細川護立
委員	子爵	井上匡四郎
委員	男爵	荒川義太郎

川上親晴
湯淺倉平

貴族院議長公爵徳川家達殿

競馬法案特別委員會ノ報告ニ對スル少數者意見

本案ハ否決スヘキモノナリト信ス

委員長	伯爵	兒玉秀雄
副委員長	男爵	宇佐川一正

出ノ件

大正十年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)外六件特別委員會

○大正十一年三月二十日男爵土屋光金委員ヲ辭任ス同日議長ハ其ノ補闕トシテ男爵阪谷芳郎ヲ本委

委員選舉

(補選) 大正十一年度豫備金支出ノ件

大正十一年度豫備金支出ノ件

大正十一年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)外六件特別委員會

○大正十二年三月二十日男爵土屋光金委員ヲ辭任ス同日議長ハ其ノ補闕トシテ男爵阪谷芳郎ヲ本委

大員ニ選定ス豫備金支出ノ件

大正十一年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)外六件特別委員會

大正十一年度特別會計豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計豫備金支出ノ件

大正十一年度豫備金外ニ於テ豫算超過支出ノ件特別委員ニ附託セラル

委員長及副委員長選舉ノ件

○大正十二年三月十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

議會 千九百一十九

○委員長伯爵大原重明

副委員長 橋本圭三郎

第一回 大正十二年三月二十日

○委員出席委員

委員長 伯爵 大原 重明 副委員長 橋本圭三郎

委員 伯爵 松木 宗隆 子爵 實吉 安純

同 黑岡 帶刀 男爵 武井 守正

出席政府委員

外務書記官 松永直吉

外務書記官 田中 都吉

出席委員

大藏省主計局長 田 澤 昌
 大藏書記官 佐々木 謙一郎
 陸軍一等主計正 飯塚 唯助
 海軍主計大佐 加藤 亮三
 逓信省經理局長 杉 澤 精三
 開會午前十時二十九分 重 田 伯爵
 委員 伯爵 松 木 宗 隆
 委員長伯爵太原重明 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵太原重明 開會ヲ宣告ス

○大(附記)一 議案沿革ヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○大(附記)二 議本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵大原重明 散會ヲ命ス

○大(附記)三 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正十年度豫備金支出ノ件

大正十年度特別會計豫備金支出ノ件

○委員大正十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過支出ノ件
 ○右承諾スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十日正會出ノ件

大正十一年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計第一豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計第一豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計第一豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計第一豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計第一豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計第一豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計第一豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計第一豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計第一豫備金支出ノ件

出部知事委員

朝鮮總督府財務局長

外務書記官

內務書記官

大藏省主計局長

大藏書記官

專賣局長官

陸軍一等主計正

海軍主計大佐

司法書記官

文部書記官

農商務書記官

和田 一郎

松永 直吉

堀切 善次郎

田井 昌

佐々木 謙一郎

野本 中三

飯塚 唯助

加藤 亮一

近藤 三郎

窪田 治輔

田保 忠

大開會 午前十時三十五分

○委員長伯爵大原重明 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵大原重明 散會ヲ命ス

散會 午後零時十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正十一年度第二豫備金支出ノ件

大正十一年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

右承諾スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 大原 重明

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 大原 重明 印

副委員長 橋本 圭三郎 印

○大正十二年三月十五日花井卓藏委員ヲ辭任ス同日議長ハ其ノ補闕トシテ水上長次郎ヲ本委員ニ選定ス

(附記)

司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル法律案ハ大正十二年三月十五日連繫事件トシテ其ノ審査ヲ辯護士法中改正法律案特別委員ニ付託セラル

委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

會議

第一回 大正十二年三月十四日

出席委員

委員長	伯爵 堀田 正恒	副委員長	松 室 致
委員	子爵 板倉 勝憲	男爵	太 泰 供 康
同	男爵 毛利 五郎	同	木 内 重 四 郎

同會 伊澤多喜男

竹村與右衛門

出席國務大臣

司法大臣 岡野敬次郎

出席政府委員

司法次官 山内確三郎

開會 午後一時二十九分

○委員長伯爵堀田正恒 開會ヲ宣告ス

(參照)

辯護士法中改正法律案

辯護士法中左ノ通改正ス

第十八條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ所屬辯護士ノ數寡少ニシテ辯護士會ヲ組織スルニ適セサルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ
 他ノ地方裁判所所屬辯護士ト合同シテ辯護士會ヲ設立スルコトヲ得
 同條ニ左ノ一項ヲ加フ

一ノ辯護士會ニ屬スル辯護士三百名以上ニシテ内百名以上ノ同意アルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ別ニ辯護士會ヲ設立スルコトヲ得

司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル法律案

明治二十六年司法省令第九號辯護士試験規則ニ依ル試験ノ受験ヲ出願シタル者ニシテ本法施行後五年内ニ勅令ヲ以テ定ムル試験ニ合格シタル者ハ辯護士法第二條第二號ノ規定ニ拘ラス辯護士タルコトヲ得

本法施行前ニ帝國大學法律學部法律學科ヲ卒業シタル者ハ裁判所構成法第五十八條第一項及辯護

士法第二條第二號ノ規定ニ拘ラス試験ヲ要セスシテ司法官試補ヲ命セラレ及辯護士タルコトヲ得

附則

本法ハ大正十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵堀田正恒 散會ヲ命ス

散會 午後三時三十一分

竹村與右衛門

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

辯護士法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月十四日

右特別委員長

伯爵 堀田 正恒

○ 貴族院議長公爵徳川家達殿

第二回 大正十二年三月二十日

出席委員

委員長 伯爵

堀田 正恒

副委員長

松 室

致

委員 子爵

板倉 勝憲

同

水上長次郎

郎

同 男爵

太 泰 供 康

同

男爵

毛利 五郎

郎

同

木内重四郎

同

伊澤多喜男

同

竹村與右衛門

出席政府委員

開會 午後一時十七分

○委員長伯爵堀田正恒 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵堀田正恒 散會ヲ命ス

散會 午後二時二十六分

第三回 大正十二年三月二十三日

出席委員

委員長 伯爵 堀田 正恒

副委員長 松室 致

委員 子爵 板倉 勝憲

委員 水長 次郎

委員 男爵 太秦 供康

委員 毛利 五郎

委員 同 木内 重四郎

委員 伊澤 多喜男

委員 同 竹村 與右衛門

法制局長官

馬場 鏝一

法制局參事官

黑崎 定三

出席政府委員

開會 午後一時四十八分

○委員長伯爵堀田正恒 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵堀田正恒 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十三日

法制局長官

馬場 鏝一

法制局參事官

黑崎 定三

右特別委員長

伯爵 堀田 正恒

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 堀田 正 恒 印
副委員長 伯爵 松 室 五 致 印

大正十二年三月十五日

○委員長 堀田五郎 爵位 伯爵

○副委員長 松室五郎 爵位 伯爵

○委員 堀田五郎 爵位 伯爵

○委員 松室五郎 爵位 伯爵

○委員 堀田五郎 爵位 伯爵

○委員 松室五郎 爵位 伯爵

○委員 堀田五郎 爵位 伯爵

○委員 松室五郎 爵位 伯爵

○委員 堀田五郎 爵位 伯爵

○委員 松室五郎 爵位 伯爵

遠洋漁業獎勵法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正十二年三月十五日議長ノ指名ヲ以テ遠洋漁業獎勵法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

委員長 伯爵 佐佐木 行 忠

副委員長 子爵 榎 本 武 憲

委員 小松 謙 次 郎

委員 岡 喜 七 郎

委員 男爵 平 野 長 祥

委員 男爵 斯 波 忠 三 郎

委員 仁 尾 惟 茂

委員 菅 原 通 敬

委員 中 村 圓 一 郎

○大正十二年三月十六日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 侯爵 佐佐木行忠
副委員長 男爵 平野長祥

會議

第一回 大正十二年三月十九日

出席委員

委員長 侯爵 佐佐木行忠	副委員長 男爵 平野長祥
委員 子爵 榎本武憲	委員 男爵 斯波忠三郎
委員 男爵 菅原通敬	委員 男爵 仁尾惟茂
委員 男爵 中村圓二郎	委員 男爵 小松謙次郎
出席政府委員	農商務省水產局長 村上隆吉
	農商務書記官 藏川永充

○大正十二年三月十五日開會、出席委員、農商務次官、岡本英太郎

委員名單

農商務省水產局長 村上隆吉
農商務書記官 藏川永充

開會 午前十時三十五分

○委員長侯爵佐佐木行忠 開會ヲ宣告ス

(參照)

遠洋漁業獎勵法中改正法律案

遠洋漁業獎勵法中左ノ通改正ス

第一條 政府ハ遠洋漁業ヲ獎勵スル爲毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

第五條 第一項中「冷蔵機械」及「冷却力」ヲ削リ「据附ケシメ」ノ下ニ「又ハ新造ノ保藏設備、無

線電信裝置、無線電話裝置ヲ施設シ若ハ施設セシメ」ヲ加ヘ「四十五圓」ヲ「鋼製六十圓、木製四十五圓」ニ、三十

圓」ヲ「四十圓」ニ改メ同項第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 保藏設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置 評價額ノ十分ノ三

同條第三項中「新造シ」ノ下ニ「若ハ改造シ」ヲ、「新造セシメ」ノ下ニ「若ハ改造セシメ」ヲ、「新造

費」ノ下ニ「又ハ改造費」ヲ加フ

同條第四項中「新造費」ノ下ニ「又ハ改造費」ヲ加ヘ「冷蔵機械」ヲ「保藏設備、無線電信裝置、無線

電話裝置」ニ改ム

第六條中「機關ノ馬力及冷蔵機械冷却力製氷量ノ噸數」ヲ「及機關ノ馬力」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長侯爵佐佐木行忠 散會ヲ命ス

散會 午後零時十一分

第二回 大正十二年三月二十日

出席委員

委員長 侯爵 佐佐木 行忠 副委員長 男爵 金平 文野 長 祥

委員 子爵 榎 本 武 憲 同 小松 謙 次 郎

同 男爵 中野 波 忠 三 郎 同 仁 尾 惟 茂

同 菅 原 通 敬 同 中 村 圓 一 郎

○委員 出席政府委員

農商務省水產局長 村上 隆 吉

農商務書記官 藏 川 永 充

開會 午後一時十六分

○委員長侯爵佐佐木行忠 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵佐佐木行忠 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

遠洋漁業獎勵法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十日

右特別委員長

侯爵 佐 佐 木 行 忠

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 侯爵 佐 佐 木 行 忠 印

副委員長 男爵 平 野 長 祥 印

委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月十七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

- | | | | |
|------|---|---|---|
| 和 | 田 | 義 | 正 |
| 三 | 田 | 義 | 正 |
| 中 | 川 | 久 | 任 |
| 淺 | 田 | 德 | 則 |
| 副委員長 | 中 | 川 | 久 |
| 委員長 | 伯 | 爵 | |

會議

第一回大正十二年三月十七日

- | | | | | | | | |
|-----|-----|----|----|------|----|----|----|
| 委員長 | 伯爵 | 中川 | 久任 | 副委員長 | 淺田 | 德則 | |
| 委員 | 大久保 | 利武 | 一 | 同 | 男爵 | 眞田 | 幸世 |
| 同 | 藤村 | 義 | 榮 | 朗 | 同 | 江 | 木 |
| 同 | 永田 | 秀 | 次郎 | 同 | 同 | 和 | 田 |
| 同 | 三 | 田 | 義 | 正 | | 豐 | 治 |

出席國務大臣

逓信大臣 子爵 前田 利於 定

出席政府委員

外務省條約局長 山 川 端 夫

社會局長 官 塚 本 治

社會局部長 河 原 田 稼 吉

逓信省管船局長 宮 崎 清 則

○委員長伯爵中川久任 開會ヲ宣告ス

(參照)

工場法中改正法律案 第一條中「十五人」ヲ「十人」ニ改ム

第二條中「削除人」ヲ「十人」ニ改ム

第三條中「十五歳」ヲ「十六歳」ニ、「十二時間」ヲ「十一時間」ニ改ム

第四條中「十五歳」ヲ「十六歳」ニ、「午前四時」ヲ「午前五時」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ

但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

第五條削除

第六條削除

第七條 工場主ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時

間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時

間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ

前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設クル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其

ノ超ユル時間以内就業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得

ス

第八條中「第三條乃至第五條」ヲ「第三條、第四條」ニ、「及第五條ノ規定ニ拘ラス職工」ヲ「ノ規

定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ

但シ急速ニ腐敗シ又ハ變質スル虞アル原料又ハ材料ノ損失ヲ防ク爲必要ナル場合ニ於テハ繼

續四日以上ニ亙ラス且一月ニ付七日ヲ超エサル限り行政官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

第九條乃至第十一條中「十五歳」ヲ「十六歳」ニ改ム

第十二條中「産婦」ヲ「産前産後」、若ハ生兒、哺育中ノ女子」ニ改ム

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ對

シ命スルコトヲ得

第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若

ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其

ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十五條 工場主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場

合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助ス

ヘシ

第十六條中「戶籍吏」ヲ「戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者」ニ改ム

第二十條 工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基

キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ

答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰

金ニ處ス

第三十二條中「本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違背スル所爲ヲ爲シタルトキハ」ヲ「本法若

ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法中十六歳トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

職工ヲ二組以上ニ分テ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後三年間ハ第四條ノ規定ヲ適

用セス

前項ノ規定ニ依リ十五歳未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ毎月少クトモ四回ノ

休日ヲ設ケ十日ヲ超エサル期間毎々其ノ就業時ヲ轉換スベシ

工業労働者最低年齢法案

第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲クル事業ヲ謂フ

一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業

二 物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壊若ハ解體ヲ爲

シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業（造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業

ヲ含ム）

三 土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、解體又ハ其ノ準備若ハ基礎

工事

四 道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運

送ヲ除ク

五 船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱

第二條 十四歳未滿ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十二歳以上ノ者ニシテ尋常小學

校ノ教科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條 十六歳未満ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ作業場ニ備付クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備付アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第五條 工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業シ又ハ就業セムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理人ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 使用者營業ニ關シ成年人ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ

法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九條 使用者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條 本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工場主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第十一條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際十二歳以上ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

船員ノ最低年齢及健康證明書ニ關スル法律案

第一條 本法ハ勅令ノ定ムル場合ヲ除ク外沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス

第二條 十四歳未満ノ者ハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス
前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル船舶又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ教習船ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條 十八歳未満ノ者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ船舶内勞働ニ適スルコトヲ證明シ且醫師ノ署名シタル健康證明書ヲ有スルニ非サレハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ緊急已ムヲ得サル事由アルトギハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ニ依リ健康證明書ヲ有セサル者ヲ使用シタルトキハ船長ハ最初ニ到著シタル港ニ於テ前項ノ健康證明書ヲ得シムルノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ健康證明書ヲ受タルコト能ハサル者ハ之ヲ引續キ使用スルコトヲ得ス

第一項ノ健康證明書ノ有効期間ハ之ヲ一年トス航海中其ノ期間滿了スルトキハ該航海ノ終了迄其ノ效力ヲ有スルモノト看做ス
前三項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル場合ニ之ヲ適用セス

第四條 十八歳未満ノ者ヲ船員トシテ使用スル場合ニ於テハ船長ハ其ノ本籍、氏名及生年月日

○委員ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ船舶内ニ備附クルコトヲ要ス但シ十六歳以上ノ者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ右名簿ヲ調製セサルコトヲ得

第五條 當該官吏ハ船舶ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第六條 船員、船員タラムトスル者、船舶所有者又ハ船長ハ船員又ハ船員タラムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第七條 第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル船舶所有者又ハ船長ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ規定ニ該當スル者未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ其ノ者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第一項ノ規定ニ該當スル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ
第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八條 第四條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金

第九條 本法ニ於テ船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人ニ、船舶賃借ノ場合ニ於テハ船舶賃借人ニ之ヲ適用ス

第十條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際十四歳未満ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セズ
本法施行ノ際十八歳未満ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付雇入期間ノ滿了迄第三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵中川久任 散會ヲ命ス
散會十午後零時二分

第二回 大正十二年三月二十日

出席委員

委員長 伯爵 中川 久 任 副委員長 淺田 德 則

委員 大久保 利 武 男爵 眞田 幸 世

同 男爵 藤村 義 朗 同 江 木 翼

同 永田 秀 次 郎 同 和 田 豊 治

出席國務大臣 中川 久 任 前田 利 定

第三出席政府委員

外務省條約局長 山 川 端 夫

社會局局長 塚 本 清 治

社會局部長 河 原 田 稼 吉

文部省普通學務局長 山 崎 達 之 輔

遞信次官 若 宮 貞 夫

開會 午後一時二十四分

○委員長伯爵中川久任 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵中川久任 散會ヲ命ス

散會 午後三時三十五分

第三回 大正十二年三月二十一日

出席委員

伯爵 中川久任

委員 大久保利武

同 男爵 藤村義朗

同 和田豐治

出席政府委員

外務省條約局長

社會局長官

遞信省管船局長

宮崎清則

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

開會 午後零時四十九分

○委員長淺田德則 開會ヲ宣告ス

○副委員長淺田德則 散會ヲ命ス

散會 午後一時二分

(附記) 同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ノ如シ

工場法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十一日

右特別委員副委員長

淺田德則

貴族院議長公爵德川家達殿

社會局部長

河原田稼吉

遞信次官

若宮真夫

遞信省管船局長

宮崎清則

工場労働者最低年齢法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十一日

右特別委員副委員長

淺田 徳則

貴族院議長公爵徳川家達殿

船員ノ最低年齢及健康證明書ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十一日

右特別委員副委員長

淺田 徳一則

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵

中川 久任印

副委員長

淺田 徳則印

委員

淺田 徳則印

西比利亞引揚ノ爲損害ヲ被リタル者等ノ救恤ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正十二年三月十五日議長ノ指名ヲ以テ西比利亞引揚ノ爲損害ヲ被リタル者等ノ救恤ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵 寺島誠一郎

子爵 黒田清輝

男爵 山根武亮

男爵 村上敬次郎

男爵 黒田長和

男爵 今園國貞

谷 森真男

倉 知鐵吉

藤 武喜助

委員長及副委員長選舉

西比利亞引揚ノ爲損害ヲ被リタル者等ノ救恤ニ關スル法律案特別委員會

○大正十二年三月十七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	寺島誠一郎
副委員長	男爵	山根武亮

第一回 大正十二年三月十七日

出席委員

委員長	伯爵	寺島誠一郎	副委員長	男爵	山根武亮
委員	子爵	黒田清輝	同	男爵	村上敬次郎
同	男爵	黒田長和	同	男爵	今園國真
同		谷森眞男	同		倉知鐵吉
同		藤武喜助			

○大正出席政府委員

外務次官	田中	都吉
外務書記官	東郷	茂徳

開會 午前十時二十五分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

(參照)

西比利亞引揚ノ爲損害ヲ被リタル者等ノ救恤ニ關スル法律案

第一條 西比利亞地方ニ在リタル帝國臣民ニシテ大正十一年日本軍撤退ノ際引揚ノ爲損害ヲ被

リタル者及之ニ準スヘキ損害ヲ被リタル者ニ對シテハ本法ニ依リ救恤金ヲ交付ス

第二條 前條救恤金ノ總額ハ百五十萬圓以內トス

第三條 救恤金ハ額面金額ニ依リ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス但シ二十五圓未滿ノ金額

ハ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

第四條 政府ハ前條ノ規定ニ依ル交付ニ必要ナル額ヲ限度トシ國債證券ヲ發行スルコトヲ得

第五條 救恤金ノ交付ハ之ヲ受ケムトスル者ノ申請ニ依リ救恤審査會ノ審査ヲ經テ主務大臣之

ヲ決定ス

救恤審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 前條第一項ノ申請ハ大正十二年七月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵寺島誠一郎散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十三分

第二回 大正十二年三月二十日

出席委員

委員長 伯爵寺島誠一郎 副委員長男爵 山根武亮

委員 子爵黒田清輝 同 男爵 藤村金上 敬次郎

同 西武委爵式黒田長和 同 男爵 園田貞吉

同 伯爵 谷森眞清 同 男爵 倉知鐵吉

同 伯爵 藤武喜助

○委員出席政府委員

外務次官 田中 都吉

外務書記官 東郷 茂徳

開會 午前十時五十分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午前十一時二十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

西比利亞引揚ノ爲損害ヲ被リタル者等ノ救恤ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 寺島誠一郎 印

副委員長 男爵 山根武亮 印

委員員 男爵 山田 矢 亮 明
委員員 伯爵 香島 一 浪 明

○委員員伯爵香島一浪 閣會直書 助
伯爵 香島 一 浪
伯爵 香島 一 浪

○委員員伯爵香島一浪 閣會直書 助
伯爵 香島 一 浪
伯爵 香島 一 浪

○委員員伯爵香島一浪 閣會直書 助
伯爵 香島 一 浪
伯爵 香島 一 浪

○委員員伯爵香島一浪 閣會直書 助
伯爵 香島 一 浪
伯爵 香島 一 浪

○委員員伯爵香島一浪 閣會直書 助
伯爵 香島 一 浪
伯爵 香島 一 浪

東 康 新 藤

家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案特別委員會

家祿引直處分法案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十二年三月十五日議長ノ指名ヲ以テ家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案、家祿引直處分法案
特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

子爵 五 島 盛 光
子爵 渡 邊 千 冬

男爵 沖 原 光 孚
男爵 德 川 厚

男爵 周 布 兼 道
男爵 原 保 太 郎

男爵 鍋 島 桂 次 郎

委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

山	田	林	純	精
副委員長	男爵	德	川	光
委員長	男爵	五	島	盛
委員	男爵	大	山	厚

會議

第一回 大正十二年三月十九日

出席委員

委員長	子爵	五	島	盛	光	副委員長	男爵	德	川	厚
-----	----	---	---	---	---	------	----	---	---	---

○大五十	委員	子爵	日	邊	冬	同	未	務	大	山	綱	昌
------	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

委員	男爵	沖	原	光	孚	同	男	爵	周	布	兼	道
----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(開會) 出席委員 山會 田 純 精

出席政府委員

山 脇 玄

出席政府委員

開會 午前十時五十七分

○委員長子爵五島盛光 開會ヲ宣告ス

(參照)

家祿賞典給與未済ニ關スル法律案

第一條 明治三年九月十日藩制施行以後家祿賞典祿ヲ有シタル者及其ノ家名承繼人ニシテ明治

九年第百八號布告及同年第百五十二號布告ニ依リ公債證書ヲ給與スル迄ノ間ニ於テ其ノ祿高

ニ對スル全部ノ給與ヲ受ケサル者若ハ相當額ノ給與ニ不足アル者ハ明治三十年法律第五十號

家祿賞典祿處分法及明治三十二年法律第八十四號家祿賞典祿處分法施行法ヲ準用シ祿高整理

ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ之ヲ給與ス但シ國事ニ關スル犯罪ノ爲家祿賞典祿ヲ沒收セラレ

タル者モ亦同シ

第二條 前條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ

テ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令ヲ受取リタル

日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條 本法施行以前ニ於テ出願又ハ出訴シタル者ハ本法ニ依ル出願又ハ出訴ト看做ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

家祿引直處分法案

家祿引直處分法案

第一條 明治二年藩政改革ノ爲減祿ヲ受ケタル舊和歌山藩士族中同年十二月二日ノ太政官布告

ノ祿制率ヨリ多額ノ減祿ヲ受ケタル者ハ祿制ノ率ニ引直シ其ノ不足額ヲ明治三十年法律第五

十號第一條ニ準據シテ給與ス

第二條 本法ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地

方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 本法ニ規定ナキモノハ明治三十年法律第五十號ノ規定ヲ適用ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長子爵五島盛光 散會ヲ命ス

散會 午後零時一分

(附記) 家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案、家祿引直處分法案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ

至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長 子爵 五島 盛光 印

副委員長 男爵 徳川 厚印

第一條 明治二十二年法律改革案...
 第二條 明治二十二年法律改革案...
 (附記) 家祿賞典祿給與未済ニ關スル法律案...
 第三條 明治二十二年法律改革案...
 第四條 明治二十二年法律改革案...
 第五條 明治二十二年法律改革案...
 第六條 明治二十二年法律改革案...
 第七條 明治二十二年法律改革案...
 第八條 明治二十二年法律改革案...
 第九條 明治二十二年法律改革案...
 第十條 明治二十二年法律改革案...
 第十一條 明治二十二年法律改革案...
 第十二條 明治二十二年法律改革案...
 第十三條 明治二十二年法律改革案...
 第十四條 明治二十二年法律改革案...
 第十五條 明治二十二年法律改革案...
 第十六條 明治二十二年法律改革案...
 第十七條 明治二十二年法律改革案...
 第十八條 明治二十二年法律改革案...
 第十九條 明治二十二年法律改革案...
 第二十條 明治二十二年法律改革案...
 第二十一條 明治二十二年法律改革案...
 第二十二條 明治二十二年法律改革案...
 第二十三條 明治二十二年法律改革案...
 第二十四條 明治二十二年法律改革案...
 第二十五條 明治二十二年法律改革案...
 第二十六條 明治二十二年法律改革案...
 第二十七條 明治二十二年法律改革案...
 第二十八條 明治二十二年法律改革案...
 第二十九條 明治二十二年法律改革案...
 第三十條 明治二十二年法律改革案...
 第三十一條 明治二十二年法律改革案...
 第三十二條 明治二十二年法律改革案...
 第三十三條 明治二十二年法律改革案...
 第三十四條 明治二十二年法律改革案...
 第三十五條 明治二十二年法律改革案...
 第三十六條 明治二十二年法律改革案...
 第三十七條 明治二十二年法律改革案...
 第三十八條 明治二十二年法律改革案...
 第三十九條 明治二十二年法律改革案...
 第四十條 明治二十二年法律改革案...
 第四十一條 明治二十二年法律改革案...
 第四十二條 明治二十二年法律改革案...
 第四十三條 明治二十二年法律改革案...
 第四十四條 明治二十二年法律改革案...
 第四十五條 明治二十二年法律改革案...
 第四十六條 明治二十二年法律改革案...
 第四十七條 明治二十二年法律改革案...
 第四十八條 明治二十二年法律改革案...
 第四十九條 明治二十二年法律改革案...
 第五十條 明治二十二年法律改革案...
 第五十一條 明治二十二年法律改革案...
 第五十二條 明治二十二年法律改革案...
 第五十三條 明治二十二年法律改革案...
 第五十四條 明治二十二年法律改革案...
 第五十五條 明治二十二年法律改革案...
 第五十六條 明治二十二年法律改革案...
 第五十七條 明治二十二年法律改革案...
 第五十八條 明治二十二年法律改革案...
 第五十九條 明治二十二年法律改革案...
 第六十條 明治二十二年法律改革案...
 第六十一條 明治二十二年法律改革案...
 第六十二條 明治二十二年法律改革案...
 第六十三條 明治二十二年法律改革案...
 第六十四條 明治二十二年法律改革案...
 第六十五條 明治二十二年法律改革案...
 第六十六條 明治二十二年法律改革案...
 第六十七條 明治二十二年法律改革案...
 第六十八條 明治二十二年法律改革案...
 第六十九條 明治二十二年法律改革案...
 第七十條 明治二十二年法律改革案...
 第七十一條 明治二十二年法律改革案...
 第七十二條 明治二十二年法律改革案...
 第七十三條 明治二十二年法律改革案...
 第七十四條 明治二十二年法律改革案...
 第七十五條 明治二十二年法律改革案...
 第七十六條 明治二十二年法律改革案...
 第七十七條 明治二十二年法律改革案...
 第七十八條 明治二十二年法律改革案...
 第七十九條 明治二十二年法律改革案...
 第八十條 明治二十二年法律改革案...
 第八十一條 明治二十二年法律改革案...
 第八十二條 明治二十二年法律改革案...
 第八十三條 明治二十二年法律改革案...
 第八十四條 明治二十二年法律改革案...
 第八十五條 明治二十二年法律改革案...
 第八十六條 明治二十二年法律改革案...
 第八十七條 明治二十二年法律改革案...
 第八十八條 明治二十二年法律改革案...
 第八十九條 明治二十二年法律改革案...
 第九十條 明治二十二年法律改革案...
 第九十一條 明治二十二年法律改革案...
 第九十二條 明治二十二年法律改革案...
 第九十三條 明治二十二年法律改革案...
 第九十四條 明治二十二年法律改革案...
 第九十五條 明治二十二年法律改革案...
 第九十六條 明治二十二年法律改革案...
 第九十七條 明治二十二年法律改革案...
 第九十八條 明治二十二年法律改革案...
 第九十九條 明治二十二年法律改革案...
 第一百條 明治二十二年法律改革案...

行政裁判法中改正法律案特別委員會

訴願法中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十二年三月十五日議長ノ指名ヲ以テ行政裁判法中改正法律案、訴願法中改正法律案特別委員
ヲ選定スルコト左ノ如シ

出選委員	改正法律案	訴願法
第一回	大正十二年三月二十五日	
委員	候補委員	候補委員
男爵	男爵	男爵
德富猪一郎	調所恒德	永山盛興
男爵	男爵	男爵
西村精一	渡邊廉吉	京極高備
子爵	子爵	子爵
小澤武雄	中山輔親	小澤武雄
男爵	男爵	男爵
中山輔親	中山輔親	中山輔親
侯爵	侯爵	侯爵
中山輔親	中山輔親	中山輔親

委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月二十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	侯爵	中山	輔親
副委員長	渡邊	廉吉	

會議

第一回 大正十二年三月二十五日

出席委員

委員長	渡邊	廉吉	委員	子爵	京極	高備
副委員長	西村	精一	男爵	永中山	盛興	委員
男爵	調所	恒德	同	齋藤	善八	

法制局長官

馬場 鐵一

○副委員長渡邊廉吉 開會ヲ宣告ス

(參照)

行政裁判法中改正法律案

行政裁判法中左ノ通改正ス

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件其他行政官廳ノ違法

處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル事件ヲ審判ス

訴願法中改正法律案

訴願法中左ノ通改正ス

第一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ外法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件其他行政官廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損

セラレタリトスル事件

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○副委員長渡邊廉吉 散會ヲ命ス

散會 午後一時五十五分

(附記) 行政裁判法中改正法律案、訴願法中改正法律案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシ

○開會ノ期ニテ議會ノ閉會トナレリ

委員長 侯爵 中山 輔 親印

副委員長 渡邊 廉 吉印

○開會ノ期ニテ議會ノ閉會トナレリ

第一編 改正法律案

第二編 改正法律案

第三編 改正法律案

第四編 改正法律案

第五編 改正法律案

第六編 改正法律案

第七編 改正法律案

第八編 改正法律案

○開會ノ期ニテ議會ノ閉會トナレリ

都市計畫法中改正法律案特別委員會

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十二年三月十九日議長ノ指名ヲ以テ都市計畫法中改正法律案明治四十一年法律第三十七號

中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

出選委員

第一編 改正法律案

第二編

第三編

第四編

第五編

第六編

第七編

第八編

侯爵 蜂須賀 正 韶

子爵 五 條 爲 功

子爵 清 岡 長 言

男爵 杉 溪 言 長

委員長 岡 田 良 平

副委員長 二 條 正 麿

委員 中 村 純 九 郎

委員 伊 澤 多 喜 男

委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月二十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 侯爵 蜂須賀正韶

副委員長 良爵 岡田良平

會議

第一回 大正十二年三月二十三日

出席委員

中野五委員長 侯爵 蜂須賀正韶 副委員長 岡田良平

○大五十委員 子爵 日蓮五、條、爲、清功、中野五、子爵 清十二、岡田長三、子爵

・ 委同 男爵 杉 溪 言 長 同 男爵 二 條 正 磨

(同) 伊澤多喜之男 一、同 鈴木 惣兵衛

即席出席政府委員 三十、中野五、子爵 清十二、岡田長三、子爵

都市計畫法中改正法律案特別委員會

內務省地方局長

潮 惠之輔

內務省參事官 長 岡 隆 一

內務書記官 堀 切 善 次 郎

社會局長官 塚 本 清 治

○委員 開會 午後一時十八分

○委員長 侯爵 蜂須賀正韶 開會ヲ宣告ス

(參照) 會 一 和 正 十 一 代

都市計畫法中改正法律案

○都市計畫法中改正法律案

第八條中「百分ノ十七」ヲ「百分ノ二十二」ニ改ム

附 則

本法ハ大正十二年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案

明治四十一年法律第三十七號中左ノ通改正ス

第二條中「(沖繩縣ヲ除ク)、沖繩縣ノ區及町村」ヲ削ル

第二條中「百分ノ二十九」ヲ「百分ノ四十二」ニ、「百分ノ四十七」ヲ「百分ノ六十一」ニ改ム

第四附一則ヲ修正シテ「百分ノ四十二」ニ改ム

本法ハ大正十二年度分ヨリ之ヲ適用ス

本法公布ノ日迄ニ北海道、府縣其ノ他ノ公共團體カ營業稅附加稅ニ付制限外課稅ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ制限外ノ賦課率ハ之ヲ本法ニ依リテ許可ヲ受ケタル制限外賦課率ト看做ス
(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長侯爵蜂須賀正韶 休憩ヲ命ス

休憩 午後一時四十三分

開會 午後一時五十一分

○委員長侯爵蜂須賀正韶 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵蜂須賀正韶 散會ヲ命ス

散會 午後二時十四分

第二回 大正十二年三月二十四日

出席委員

委員長 侯爵 蜂須賀正韶
副委員長 岡田良平
委員 子爵 清岡長言
委員 男爵 二條正麿
委員 男爵 鈴木總兵衛
委員 男爵 伊澤多喜男
委員 男爵 杉本溪
委員 男爵 堀切善次郎
委員 男爵 塚本清治

委員長 侯爵 蜂須賀正韶 副委員長 岡田良平

委員 子爵 清岡長言 委員 男爵 二條正麿

委員 男爵 鈴木總兵衛 委員 男爵 伊澤多喜男

委員 男爵 杉本溪 委員 男爵 堀切善次郎

委員 男爵 塚本清治 出席政府委員 潮惠之輔

出席政府委員 潮惠之輔

出席政府委員 岡隆一

出席政府委員 堀切善次郎

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

出席政府委員 塚本清治

○委員正副委員長及委員 開會の順序

正委員長 佐藤 兵衛

副委員長 岡田 貞平

委員 岩倉 道俱

委員 村上 敬次郎

委員 近衛 文麿

委員 藤村 謙義

委員 郷 誠之助

委員 若槻 禮次郎

委員 菅原 通敬

委員 佐藤 傳兵衛

大正十二年三月二十四日

右特別委員長
佐藤 兵衛
右副委員長
岡田 貞平
右委員
岩倉 道俱
村上 敬次郎
近衛 文麿
藤村 謙義
郷 誠之助
若槻 禮次郎
菅原 通敬
佐藤 傳兵衛

行政整理又ハ軍備ノ制限整理ニ關スル公債發行ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

大藏省 太田 嘉太郎

大正十二年三月二十日

○大正十二年三月二十日議長ノ指名ヲ以テ行政整理又ハ軍備制限整理ニ關スル公債發行ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

委員 近衛 文麿

委員 村上 敬次郎

委員 岩倉 道俱

委員 藤村 謙義

委員 郷 誠之助

委員 若槻 禮次郎

委員 菅原 通敬

委員 佐藤 傳兵衛

○大正委員長及副委員長選舉員及候補委員員及正副委員長ノ結果

行政整理又ハ軍備ノ制限整理ニ關スル公債發行ニ關スル法律案特別委員會

○大正十二年三月二十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 公爵 近衛 義 朗
副委員長 男爵 藤村 義 朗

會議

第一回 大正十二年三月二十五日

出席委員

副委員長男爵	藤村 義 朗	委員男爵	村上 敬次郎
同 男爵	郷 誠之助	同 男爵	南 倉 重 弘
同	佐藤 傳兵衛	同 男爵	林 正 雄 次郎

出席政府委員

大藏 次官 西 野 元

○大正十二年三月二十日開會ハ、大藏書記官 畑 野 敬 吉

委員選舉

大藏書記官 太田 嘉太郎

行政整理又ハ軍備ノ制限整理ニ關スル公債發行ニ關スル法律案特別委員會

○副委員長男爵藤村義朗 開會ヲ宣告ス

(參照)

行政整理又ハ軍備ノ制限整理ニ關スル公債發行ニ關スル法律案
今回ノ行政整理又ハ軍備ノ制限若ハ整理ニ際シ退職シタル者、休職ヲ命セラレタル者、
現役ヲ退カシメラレタル者、解職若ハ解備セラレタル者又ハ死亡シタル者ニ特別ノ賜金又ハ手
當トシテ交付スル爲政府ハ額面五千二百萬圓ヲ限リ公債ヲ發行スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○副委員長男爵藤村義朗 散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ノ如シ

行政整理又ハ軍備ノ制限整理ニ關スル公債發行ニ關スル法律案
右可決スヘキモノト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十五日

右特別委員副委員長

藤村 義朗

議會貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 近衛 文麿 印

副委員長 藤村 義朗 印

委員 村上 敬次郎

委員 村山 敬次郎

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

委員 大谷 廣

賠償金特別會計法中改正法律案特別委員會

對支文化事業特別會計法案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十二年三月二十一日議長ノ指名ヲ以テ賠償金特別會計法中改正法律案、對支文化事業特別會計法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵 奧 平 昌 恭

子爵 牧 野 忠 篤

內 田 嘉 吉

○大正十二年三月二十五日議長ノ指名ヲ以テ賠償金特別會計法中改正法律案、對支文化事業特別會計法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

男爵 平 野 長 祥

男爵 藤 田 平 太 郎

江 木 翼

和 田 豐 治

○大正十二年三月二十一日男爵藤田平太郎委員ヲ辭任ス同日議長ハ其ノ補闕トシテ男爵伊藤文吉ヲ本委員ニ選定ス

委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

會議

第一回 大正十二年三月二十三日

○大正出席委員 二十一日 藤田平太郎 伊藤文吉 伯爵 奧平昌恭

委員長	伯爵 奧平昌恭	副委員長	內田嘉吉
委員	男爵 伊藤文吉	委員	男爵 平野長祥
委員	男爵 藤田平太郎	委員	江木翼
委員	男爵 藤田平太郎	委員	伊藤傳七

出席政府委員

大藏省理財局長 小野義一、外務省亞細亞局長 芳澤謙吉

○委員長伯爵奧平昌恭 開會ヲ宣告ス

(參照)

賠償金特別會計法中改正法律案

第七條 山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條並山東懸案鐵道細目協定第四條ノ規定

ニ依リ支那政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券ハ本會計ニ歸屬セシメ同條約第二十二條ノ規定

ニ依リ設立セラルル會社ヨリ山東懸案細目協定第二十四條ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル補償金

ハ本會計ニ繰入ルヘシ

前項ノ規定ニ依リ本會計ニ歸屬セシムル國庫證券ノ額面金額及本會計ニ繰入ルル補償金ノ額

ハ通シテ獨逸國トノ平和條約附屬議定書第二號ノ規定ニ依リ獨逸國ノ貸方ニ記入スヘキ金額

ヲ超ユルコトヲ得ス
附 則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條並山東懸案鐵道細目協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受ケタル國庫證券ハ本法施行ノ際之ヲ本會計ニ歸屬セシム

第一條 對支文化事業特別會計法案
對支文化事業特別會計法
對支文化事業助長ノ爲會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 左ニ掲クル證券ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシム
一 明治三十四年支那國及列國最終議定書第六條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ受領シタル四分利付支那國債券

二 山東懸案解決ニ關スル條約第六條及第二十五條並山東懸案細目協定第十九條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券中製鹽業者ニ交付スルモノヲ除キタルモノ

三 山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條並山東懸案鐵道細目協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券中賠償金特別會計ニ歸屬セシメラルヘキモノヲ

除キタルモノ

第三條 山東懸案解決ニ關スル條約第二十二條ノ規定ニ依リ設立セラルル會社ヨリ山東懸案細目協定第二十四條ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル補償金中賠償金特別會計ニ繰入レラルヘキモノヲ除キタル殘額ハ之ヲ本會計ニ繰入ルヘシ

第四條 本會計ニ於テハ左ニ掲クル諸收入ヲ以テ其ノ歲入トス
一 所屬證券ノ償還元利金
二 所屬資金ノ運用利殖金
三 寄附金
四 附屬雜收入

第五條 本會計ニ於テハ左ニ掲クル事業ニ關スル諸費ヲ以テ其ノ歲出トス
一 支那國ニ於テ行フヘキ教育、學藝、衛生、及救恤
二 帝國ニ在留スル支那國人民ニ對シテ行フヘキ前號ニ掲クル事業ト同種ノ事業
三 帝國ニ於テ行フヘキ支那國ニ關スル學術研究ノ事業

第六條 寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

第七條 本會計ノ歳出額ハ寄附金ニ依ルモノヲ除ク外毎年度二百五十萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條 本會計ノ決算上剩餘金ヲ生スルトキハ之ヲ積立ツヘシ

第九條 本會計ノ資金ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第十條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

附則

本法ハ大正十二年度ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年度一般會計ニ於テ明治三十四年支那國及列國最終議定書第六條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ受領シタル四分利付支那國債券ノ元利償還金收入トシテ受入レタル金額ニ相當スルモノハ本法施行ノ際之ヲ本會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ
本法施行前第二條第二號及第三號ニ規定スル國庫證券ニシテ本法施行前支那國政府ヨリ交付ヲ受ケタルモノハ本法施行ノ際之ヲ本會計ニ歸屬セシム
(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵奥平昌恭 散會ヲ命ス

大散會 午後二時五十二分

第二回 大正十二年三月二十四日

出席委員

委員長 伯爵奥平昌恭 副委員長

委員 子爵三牧小野 忠篤 同 内田嘉吉

委員 同爵奥平男爵 野平 長祥 同 男爵 伊藤文吉

委員 同爵奥平男爵 江 翼 同 和田豐治

同會 伊藤 傳七

出席政府委員

外務次官 田中都吉

外務省亞細亞局長 芳澤謙吉

外務書記官 岡部長景

大藏省理財局長 小野義一

開會 午前十時二十九分 大藏書記官 太田嘉太郎

○委員長伯爵奧平昌恭 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵奧平昌恭 休憩ヲ命ス

休憩 午後零時十八分

開會 午後二時十九分

○委員長伯爵奧平昌恭 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵奧平昌恭 散會ヲ命ス

散會 午後三時三十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

賠償金特別會計法中改正法律案

ノ右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十四日

右特別委員長

伯爵 奧平昌恭

貴族院議長公爵徳川家達殿

對支文化事業特別會計法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十四日

右特別委員長

伯爵 奧平昌恭

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 奧平昌恭 印

副委員長 內田嘉吉 印

○委員長 伯爵 松平 賴壽
 ○委員 子爵 毛利 高範
 ○委員 子爵 伊東 八祐
 ○委員 子爵 中村 是公
 ○委員 子爵 中島 久萬
 ○委員 子爵 長松 篤柴
 ○委員 子爵 藤田 四郎
 ○委員 子爵 田所 美治
 ○委員 子爵 藤本 閑作

開委員會 內田 嘉吉
 委員長 伯爵 松平 賴壽
 委員 子爵 毛利 高範
 委員 子爵 伊東 八祐
 委員 子爵 中村 是公
 委員 子爵 中島 久萬
 委員 子爵 長松 篤柴
 委員 子爵 藤田 四郎
 委員 子爵 田所 美治
 委員 子爵 藤本 閑作

支那ニ本店ヲ設クル會社ノ資本ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正十二年三月二十一日議長ノ指名ヲ以テ支那ニ本店ヲ設クル會社ノ資本ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵 松平 賴壽
 子爵 毛利 高範
 子爵 伊東 八祐
 子爵 中村 是公
 子爵 中島 久萬
 子爵 長松 篤柴
 子爵 藤田 四郎
 子爵 田所 美治
 子爵 藤本 閑作

支那ニ本店ヲ設クル會社ノ資本ニ關スル法律案特別委員會

○大正十二年三月二十三日委員及副委員及出席委員
 委員長 伯爵 松平 賴壽
 副委員長 田所 美治

第一回 大正十二年三月二十四日

會議

出席委員

委員長	伯爵	松平	賴壽	副委員長	田所	美治
委員	子爵	毛利	高範	同	伊東	祐弘
同	同	中村	是公	同	男爵	中島
同	男爵	長松	篤柴	同	同	藤本
出席政府委員				外務次官	田中	都吉
				外務書記官	酒匂	秀一
				司法書記官	長島	毅

○大正十二年三月二十一日委員及副委員及出席委員

出席委員

委員長 伯爵 松平 賴壽
 副委員長 田所 美治
 委員 子爵 毛利 高範
 同 同 中村 是公
 同 男爵 長松 篤柴
 出席政府委員
 外務次官 田中 都吉
 外務書記官 酒匂 秀一
 司法書記官 長島 毅

開會 午後一時十六分

○委員長伯爵松平賴壽 開會ヲ宣告ス

(參照)

支那ニ本店ヲ設クル會社ノ資本ニ關スル法律案

支那ニ於テ營業ヲ爲スヲ主タル目的トスル會社カ本店ヲ支那ニ設クルトキハ支那ニ流通スル銀貨幣ヲ以テ資本ノ額ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ資本ノ額ヲ定ムル會社カ株式會社又ハ株式合資會社ナルトキハ株式ノ額ハ海關兩二十五兩ニ相當スル額ヲ下ルコトヲ得ス但シ一時ニ株式ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り海關兩十兩ニ相當スル額迄ニ之ヲ下スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵松平賴壽 散會ヲ命ス

散會 午後一時五十一分

第二回 大正十二年三月二十五日

出席委員

委員長 伯爵 松平 賴壽 副委員長 田所 美治

委員 子爵 毛利 高範 同 子爵 伊東 祐弘

同 中村 是公 同 男爵 中島 久萬吉

同 男爵 藤長 松 篤 同 藤田 四郎

同 藤本 閑 作 同

出席政府委員 資本 藤本 閑 作 外務次官 田中 都吉

外務省通商局長 永井 松三

外務書記官 酒匂 秀一

大藏省理財局長 小野 義一

大藏書記官 草間 秀雄

司法省民事局長 池田 寅二郎

司法省參事官 長 島 毅

司法省參事官

長 島

毅

開會 午前十時二十五分

○委員長伯爵松平賴壽 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵松平賴壽 休憩ヲ命ス

休憩 午後零時二十四分

開會 午後一時十六分

○委員長伯爵松平賴壽 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵松平賴壽 散會ヲ命ス

散會 午後一時五十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

支那ニ本店ヲ設クル會社ノ資本ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十五日

右特別委員長

大正十一年 貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 松平 頼壽
副委員長 田所 美治 印

（開會） 同日議員ニ發出シテ委員長ノ購書式ニ成ル

○委員長伯爵松平頼壽 開會ニ出席ス

開會 千禧一月初十六日

○委員長伯爵松平頼壽 開會ニ出席ス

開會 千禧一月初二十四日

東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正十二年三月二十四日議長ノ指名ヲ以テ東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

子爵	藤谷 爲 寛
子爵	堤 本雄 長
男爵	古市 公 威
男爵	岡田 良 平
男爵	神野 勝之助
男爵	若王子 文 健
男爵	千 秋 季 隆
男爵	高 倉 虎
	西川 甚五郎

委員長及副委員長選舉

○大正十二年三月二十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

會議

第一回 大正十二年三月二十五日

出席委員

委員長

岡田良平

副委員長子爵

藤谷爲寬

委員 子爵

堤雄長

同 男爵

古市公威

同 男爵

神野勝之助

同 男爵

若王子文健

同 男爵

千秋季隆

同 男爵

若王子文健

出席國務大臣

○大正十二年三月二十四日國務大臣 文部大臣 大田 榮吉

出席政府委員

東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案特別委員會

松浦鎮次郎

文部書記官

窪田 治 輔

開會 午前十時十九分

○委員長岡田良平 開會ヲ宣告ス

(參照)

東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案

火災復舊ノ費用ニ充ツル爲大學特別會計法第二條ノ金額ノ外總額金六十萬圓ヲ大正十二年度及

大正十三年度ニ互リ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ東京帝國大學特別會計ニ繰入ル

ヘシ

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長岡田良平 散會ヲ命ス

散會 午前十時五十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也